

根津・千駄木下町祭り 利用実態調査報告書

平成 24 年 2 月

東洋大学国際地域学部国際観光学科
東海林ゼミ 3 年

目次

1	根津・千駄木地域の概要	1
	(1) 根津地域	
	(2) 千駄木地域	
	(3) 根津・千駄木地域が抱える問題	
	(4) 根津・千駄木下町まつり	
	(5) 根津神社	
	(6) 東海林ゼミと根津・千駄木地域の関わり	
2	アンケート調査	6
	(1) 調査目的	
	(2) 日時	
	(3) 場所及び被験者数	
	(4) 実施体制	
	(5) 調査項目とねらい	
	(6) アンケート方法	
3	アンケート結果	8
	(1) 被験者数	
	(2) 各質問項目の集計結果(単純集計)	
	(3) 各質問項目のクロス集計	
	(4) 調査結果のまとめ	
4	メイン会場における来場者数調査	34
	(1) 調査目的	
	(2) 実施方法	
	(3) 調査結果	
	(4) 来場者数に関する推計結果のまとめ	
5	会場レイアウト	43
	(1) 調査目的	
	(2) 調査方法	
	(3) 問題点と改善案	
	(4) 会場レイアウト図	
6	サブ会場における各種イベントの実施状況	47

7 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 1

(1) アンケート票

(2) ミニガイド

(3) 調査を終えて(各ゼミ生の感想)



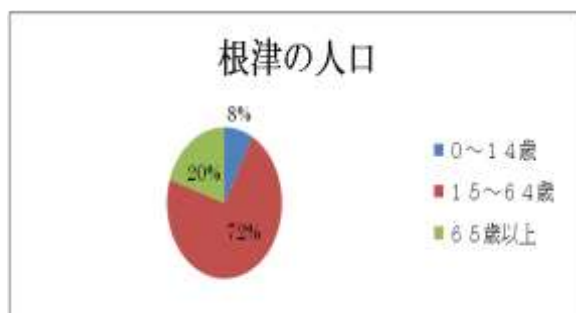
1 根津・千駄木地域の概要

本調査の報告に当たって、まず根津・千駄木地域や根津・千駄木下町まつりの概要を調査した。この調査は、根津・千駄木に関する知識を整理することで、報告内容をより詳細かつ適切なものとするを目的として実施したものである。

(1) 根津地域

根津地域は不忍通りを中心とした高台の間に位置し、不忍通り沿いは商店街や事務所が入ったマンションが多く立ち並んでいる。しかし、裏通りに入ると静かな住宅地域が広がる。沿道には長屋や昔ながらの木造住宅が密集しており、鉢植えが並べられていたり緑の多い独特の路地空間が形成されている。路地空間を中心に地域住民は生活している。その路地空間自体が観光地となり多くの観光客が足を運んでいる。この地域は徳川家ゆかりの地で、根津神社も存在する。また、この周辺は関東大震災や東京大空襲の被害を遭わなかったために棟続きの長屋や趣のある住宅街が密集しており、下町情緒あふれる町並みを残している。ここには大正時代から続く老舗和菓子店から若者向けのセレクトショップなど幅広い年齢層をターゲットとした店が点在し、人の流れは比較的多い。

根津の年齢(各歳)・男女別人口			
年齢(各歳)	総数	男	女
0～14歳	476	248	228
15～64歳	4 199	2 006	2 193
65歳以上	1 169	457	712
合計	5 844	2 711	3 133



(平成 17 年度国勢調査より：<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/kokusei/kd-index.htm>)

人口は、円グラフをみてわかるように高齢者が約 20% 占めている。また、若干ではあるが、女性の方が多く住んでいることも読み取れる。

(2) 千駄木地域

千駄木地域は閑静な住宅街であり、高台にはマンションなどが立ち並ぶ。また、不忍通り沿い周辺は再開発が進み、商店街も新たな発展を遂げている。しかし、よみせ通り商店街は昔ながらの面影を残した老舗店などが点在し、今も下町の風情を残している。

千駄木地域には川端康成、北原白秋、高村光太郎、夏目漱石、森鷗外などの多くの文豪が住んだ歴史がある。特に夏目漱石の『吾輩は猫である』を執筆した家や森鷗外の居宅であった観潮楼が有名である。その森鷗外の生誕 150 周年を記念し、森鷗外記念館（仮称）が平成 24 年に開館予定である。また、千駄木のお屋敷町にある「旧安田邸」は、藤田好三郎氏によって大正 8 年に建築されたもので、家具や庭園までもが当時のまま今も守られている。

根津地域と同様、千駄木地域も高齢者が約 2 割を占めており、女性の方が多く住んでいる。



(平成 17 年度国勢調査より：<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/kokusei/kd-index.htm>)

(3) 根津・千駄木地域が抱える問題

①防災面

住宅においても築 20 年以上のものも多く、木造住宅が連なっている地域もあるために防災面の心配が懸念されている。狭い道路に起因する危険性、老朽化した建物の倒壊危険、避難場所確保に対する不安感も地域住民が感じている問題点でもある。

幹線道路は、情緒あふれる景観に違和感を与えるものの一つではあるが、住民の災害時の避難路となり、また延焼遮断機能の強化にもつながる。延焼遮断機能はマンションの高層化によっても強化されている。対照的に、地域路地においては建物の看板・ガラス等の落下防止対策等による避難経路の確保・強化が必要とされている。また、災害時の安全性確保のために、建て替え等の誘導や、行き止まりをなくすよう通り抜けの通路確保を図ることが必要となる。防災活動を行うために必要な幅員は 4 m 以上とされていることから、幅員が 4 m 未満の路地においては特にこれらの点の改善が必要となってくる。

上記のようなハード面ばかりではなく、防災訓練等のソフト面も強化が必要である。実際のところ、防災訓練の住民の参加率は高いが参加者に偏りがでている。子供から高齢者まで多様な世帯が住み続けられるためにも、安全性を確保し、多様な住宅環境の構築や道路整備を進めていく必要がある。しかしこれらの整備等の防災面だけを考慮して進めていくと下町らしさは失われていく。このバランスが重要となってくる。

②景観の統一

現在の根津・千駄木地域は新旧の建築物が同エリアに建てられている状況で、住宅地においても商店街においても統一感があまり見られない。

そのため、隣接する複数の土地所有者等が建設を行う際、壁面の位置や建物の高さやデザイン等、一体性に配慮した設計に基づいて建築時期を合わせて個々の敷地で建築する。これを行うことによって、地域の景観の統一にもつながる上に、再建ということで防災上の安全性の向上にもつながると考えられる。住宅だけにかぎらず、商店等においても統一化を図り（看板のデザインの統一等）、一体感を出すことによって景観をよりよいものにできる。しかし、近隣住居者の考えの相違や土地所有者の意見なども含めて考えるとスムーズに進められる案ではないと考えられる。

③地域住民の声

元々生活空間だったところが観光地になっていったがために、観光地化していくことに対して複雑な心境の地域住民もいる。飲食店を除く消費活動が少ない、マナーが悪い、この2つが主な問題点だといえる。中には、元々商店は地域住民のために開いてるもののため土日は閉めてしまうという考えの地域住民もいる。ここで大切なのは、観光客を顧客として位置づけるか否かといった立場の違いから生まれる意見の違いを理解することである。

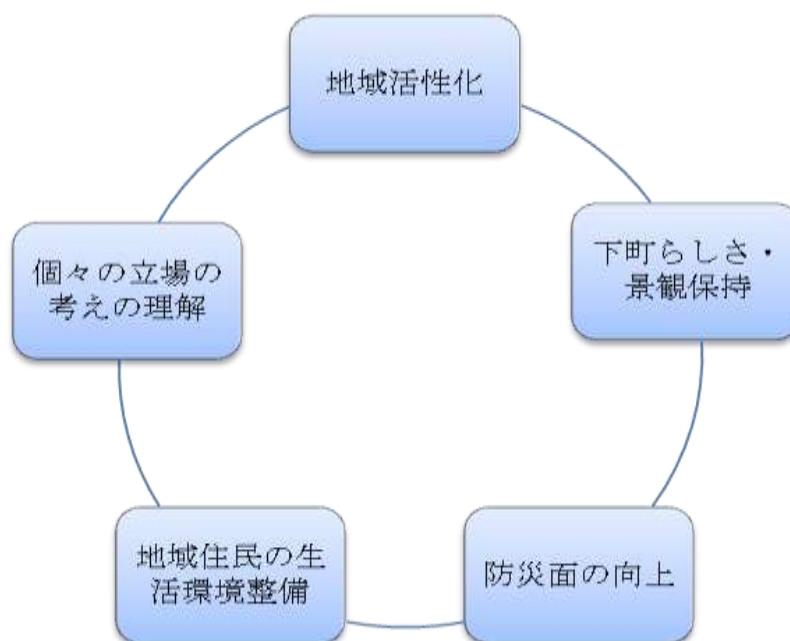


図1 まちづくりのバランス

(4) 根津・千駄木下町まつり

台東区は上野・浅草という観光地を持っており、観光資源に対して行政が力を注いでいた。ちょうど、谷根千などが話題となっていたこともあり、谷中あたりに祭りをとの発想から文京区と合同のイベントとして昭和 63 年から 10 年という条件付きで提案されたと思われる。第一回目を根津神社としたのは、規模や動線など場所的な理由と、根津・千駄木の氏神様でもあったことが考えられる。ちなみに台東区の開催地は谷中墓地の参道であり、毎年交互に場所を変えて行われてきた。平成元年に第一回文京・台東下町まつりが開催され、10 年を区切りに根津・千駄木下町まつりに引き継がれた。根津・千駄木が引き継いだ背景には、住民の強い要望と根津神社という強い核があったからだと考えられる。それから根津・千駄木地域が 1 年ごとに担当を交代しながら開催を行っている。この他に、町会連合会、商店街連合会など多くの団体が後援し、協賛にも幅広い企業が加わっており、地域・事業者・行政が一体となった共同事業といえる。台東区と共同で開催された時点から数えると、今年で 23 回の歴史をもつ。

根津・千駄木下町まつりは毎年 10 月に行われており、メイン会場とサブ会場からなる。メイン会場の根津神社境内では、模擬店、各種出し物、フリーマーケットなどがある。サブ会場は、①よみせ通り延命地藏尊 ②須藤公園 ③駒込大観音 ④千駄木 2 丁目会場 ⑤藍染大通り ⑥不忍通りふれあい館 ⑦根津銀座通り ⑧宮永仲通りがあり、地域住民による出し物が行われ、町の活気を肌で感じることができる（③駒込大観音は平成 22 年度で終了）。

(5) 根津神社

根津・千駄木下町まつりのメイン会場である根津神社は、6代将軍徳川綱豊（家宣）が生まれた地である。そのため、根津神社は産土神（守り神）となり、1706年に5代将軍綱吉は現在地に社殿を造営した。権現造（本殿、幣殿、拝殿を一体と造る構造）の完成形として見事な姿を残す社殿は、その7棟が国の重要文化財として指定され、近代文学の作品の中にもしばしば登場している。こちらの境内では春には3000株あまりの様々なつつじが咲き乱れ、毎年4月には「つつじまつり」が行われ、多くの人が来場されている。



（６）東海林ゼミと根津・千駄木地域の関わり

東洋大学白山第２キャンパスには、国際地域学部国際観光学科があり、観光学を専門的に勉強する学科がある。その中の東海林ゼミでは、ゼミ活動の一環として地域活性化の方策を学ぶとともに地域貢献を行うために、平成２１年度より１０月に行われている根津・千駄木下町まつりにおいて、①ミニガイドの出版 ②利用実態調査・報告書のとりまとめ ③たい焼き・たこ焼き出店事業等を行っている。私達、学生が参加することによって、微力ながらも学生ならではの視点から地域活動に刺激を与え、更なる活性化に貢献することを目的として実施しているものである。また、東洋大学の全体のイメージアップにもつながり、地域住民との距離を多少ながら縮めることもできているのではないかと考えている。平成２２年度の利用実態調査では休憩スペースの設置の要望が多いことが明らかになり、平成２３年度にはこの意見が反映され、境内にベンチが設置された。

<参考>

- ・文京区ホームページ：http://www.city.bunkyo.lg.jp/sosiki_busyo_koho_this_site.html
- ・こらびっと文京：<http://collabit.net/>
- ・根津神社：<http://www.nedujinja.or.jp/index.html>
- ・谷根千ねっと：<http://www.yanesen.net/>
- ・東京の統計：<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/>
- ・<http://www.castanea.jp/yanesen>
- ・国勢調査：<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/kokusei/kd-index.htm>
- ・根津駅周辺地区まちづくり基本計画

<ヒアリング協力>

- ・汐見地域活動センター 田中正文所長
- ・根津地域活動センター 境野詩峰所長
- ・文京区役所アカデミー推進課 萩原係長、池田さん

2 アンケート調査

(1) 調査目的

「根津・千駄木下町まつり」の利用実態を明らかにし、祭りの魅力を発見するとともにおまつりが周辺地域にもたらす経済効果を明らかにし、地域活性化方策の検討に貢献することを目的としている。

(2) 日時

平成 23 年 10 月 15 日(土) ～16 日(日)

(3) 場所及び被験者数

おまつりのメイン会場である根津神社で実施した。被験者数の目標は 200 人である。

(4) 実施体制

東洋大学国際地域学部国際観光学科・東海林ゼミの 3 年生 22 人が、東海林克彦教授及び文京区根津地域活動センターの境野詩峰所長、文京区汐見地域活動センターの田中正文所長の指導を受けながら実施した。

(5) 調査項目とねらい

主な調査項目とねらいは次の表のとおりである。

項目	ねらい
被験者の属性（性別・年齢）	男女の比率、来場者の年齢層を把握する。
同伴者	祭りには誰と来ているかを把握する。
祭りに来た理由	祭りに来る目的を探る。
住まい	祭りの集客力を把握する。
来訪回数	リピート率を把握する。
来訪時間・滞在時間	集客の増減を把握する。
下町まつりのことを知った手段（きっかけ）	有効な情報手段を探る。
サブ会場の利用実態	サブ会場の利用率・改善点の発見。
下町まつりの魅力	下町まつりの魅力の発見。
模擬店で買った物	祭りでの消費行動と模擬店で人気商品を明らかにする。
下町まつり以外の根津・千駄木地域での消費金額・消費目的	祭りが周辺地域へ経済効果を与えているかを探る。
来年も祭りに来たいかどうか	祭りの満足度を探る。

(6) アンケート方法

おまつりのメイン会場である根津神社において、利用者に対して「直接聞き取り方式」により実施した。

3 アンケート結果

(1)被験者数

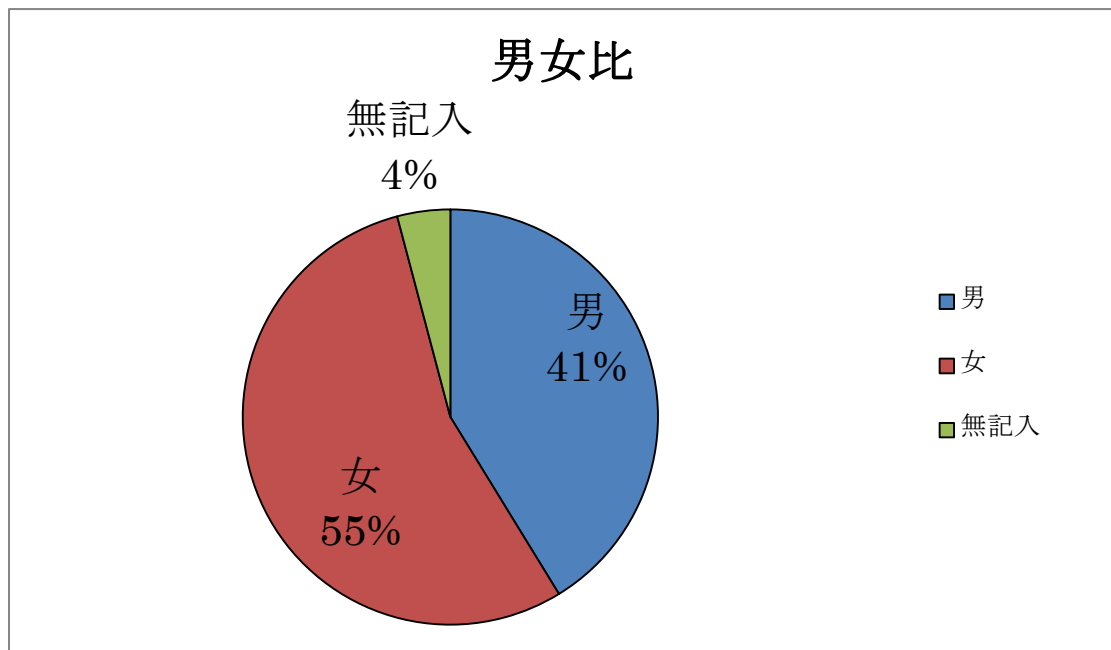
被験者数は 92 人であった。また、回答者全体の平均は 33.9 歳(去年は 33.8 歳)であった。

当初の被験者の目標数は 200 人であったが、実際は 92 人とどまっている。これは、下町まつりの 1 日目に当たる 10 月 15 日(土)の午前中の天候が悪かったことから利用者数が少なかったこと、ゼミ生全員でたい焼き・たこ焼きの出店事業を行っていて調査にまわすことのできる人員が少なかったこと、昨年とは異なり新規の試みとして来場者調査を行ったため利用調査をする時間が少なくなってしまったによるものである。

(2)各質問項目の集計結果(単純集計)

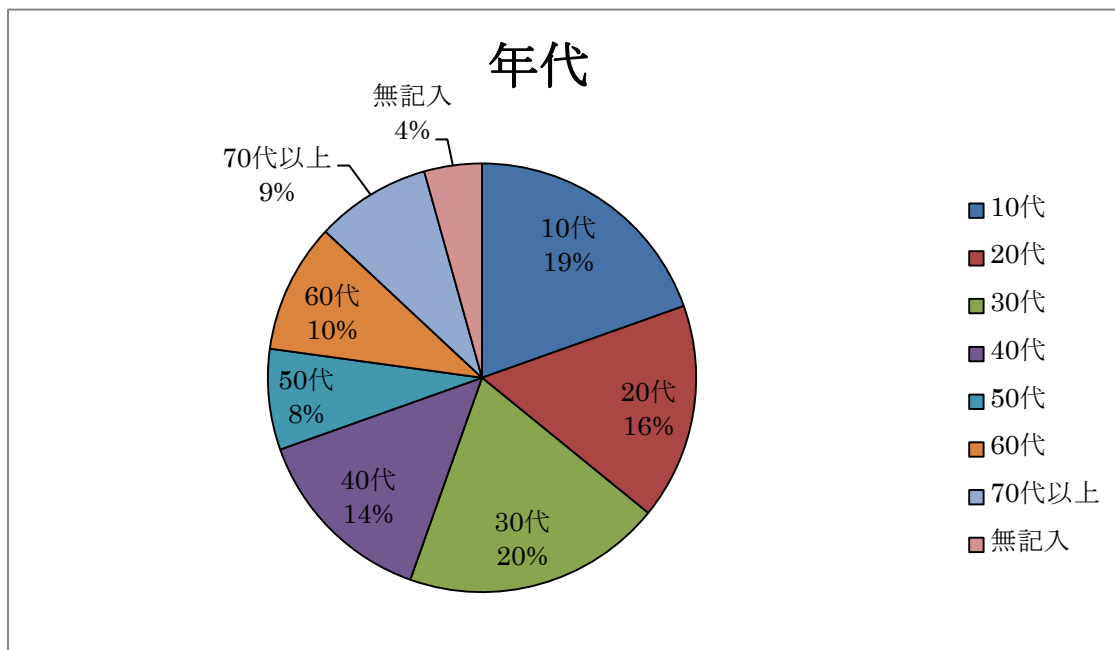
各質問項目の単純集計結果は、次の通りである。なお、一部の質問については回答をもらえなかった被験者がいたことから、各質問項目には回答者数に若干の差が生じている。

1. 性別



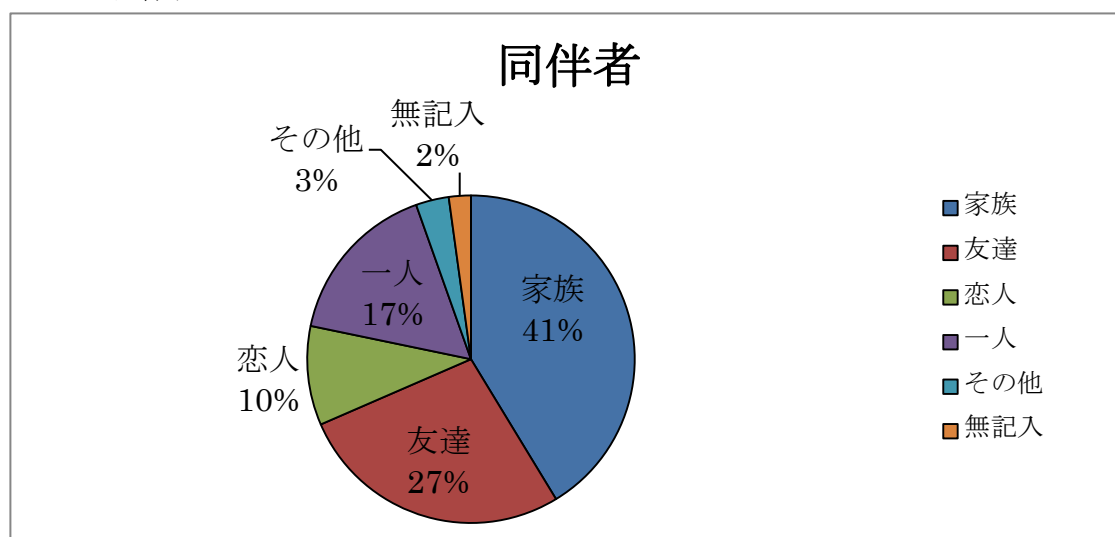
アンケートに答えてもらった人の割合は、女性が 55%、男性が 41%、残り 4%は無記入であった。

2. 年齢



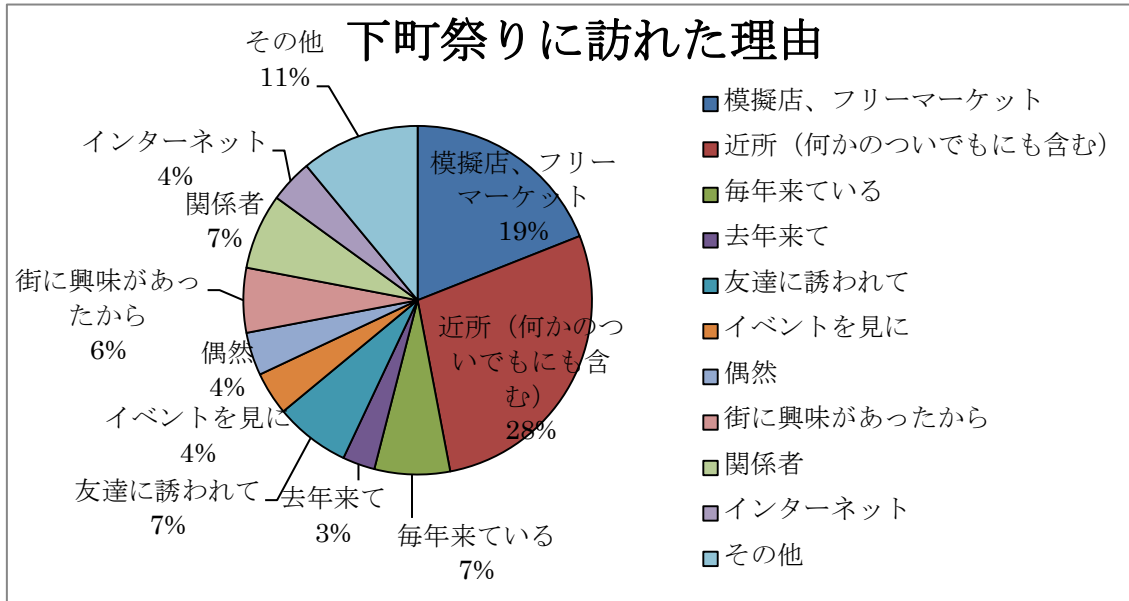
アンケートに答えてくれた人の年齢は、10代が19%で、20代が16%、30代が20%、40代が14%、50代が8%で、60代が10%、70代以上が9%という結果となった。ゼミ生一人一人に調査対象年齢層を設けて調査を行ったために、大きな偏りはなかったといえる。

3. 同伴者



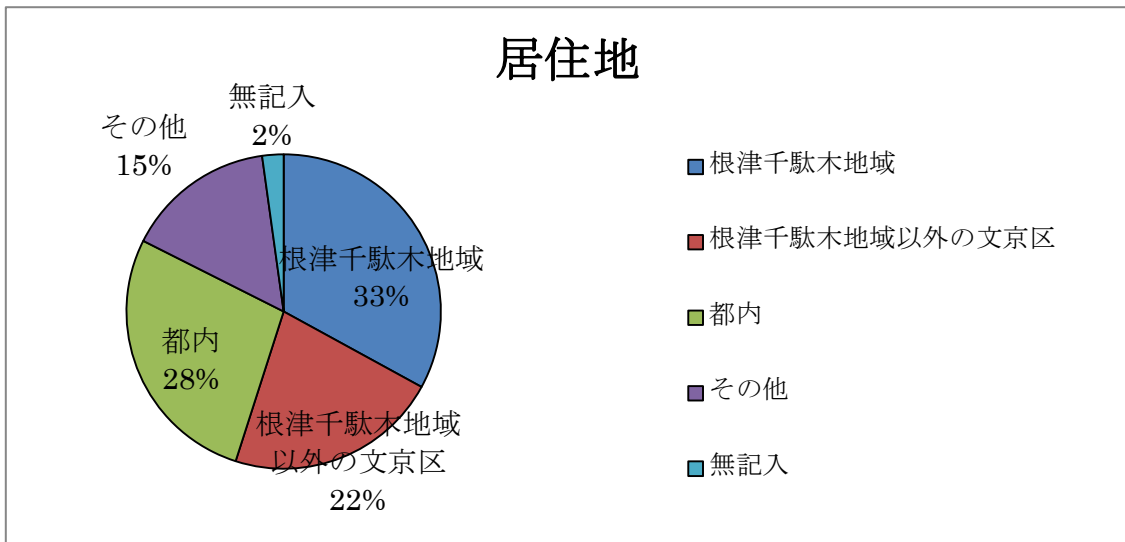
下町まつりに訪れた人は41%が家族連れ、友達と訪れた人は27%、恋人と訪れた人は10%、一人で訪れた人は17%、その他が3%、無記入が2%という結果となった。幅広い形態の人々に親しまれている中で家族連れが多少強いと分かる。会場をみても、家族といってもベビーカーを押している人から、年配のご夫婦まで様々であった。

4. 来場理由



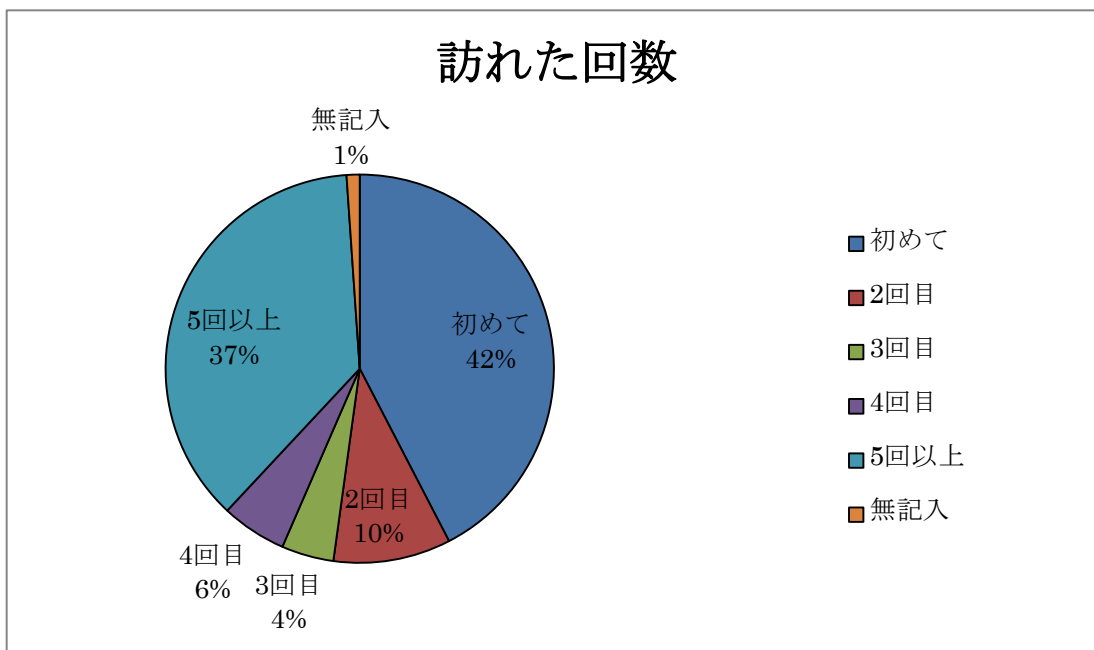
来場者に下町まつりに訪れた理由を聞いてみたところ、家が近所であるから（学校帰りや散歩のついでにも含む）という理由が最も多く、その次に模擬店やフリーマーケットでの買い物を目的として訪れた人が多いという結果がでた。理由をみてもやはり地元の人に親しまれている、地域密着型のお祭りであることが分かる。

5. 居住地



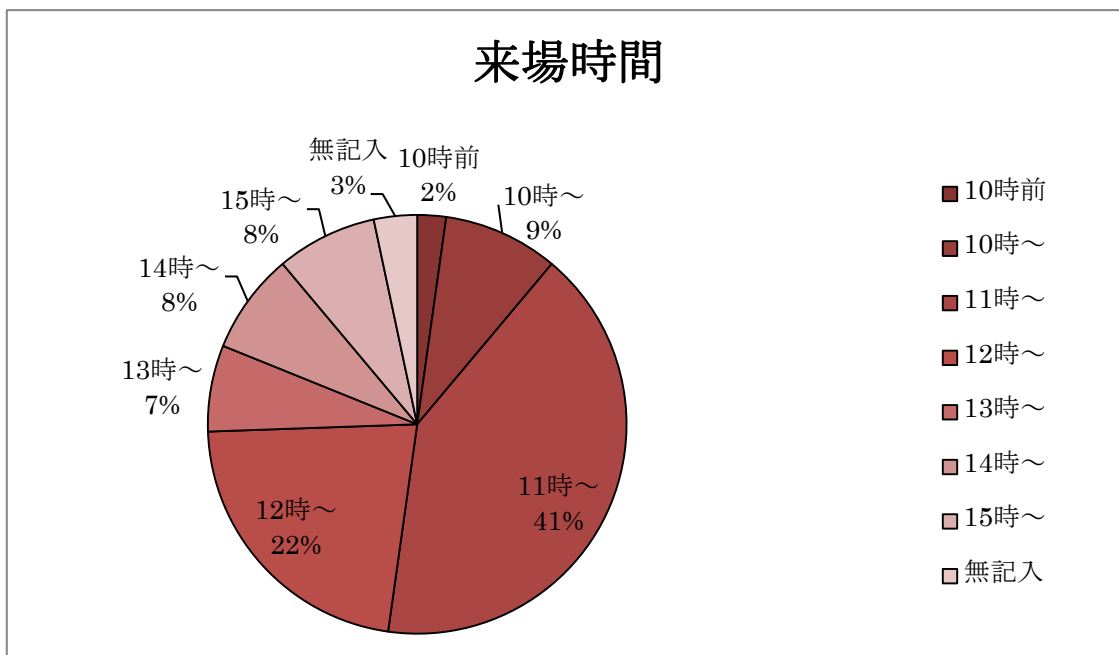
来場者に居住地を聞いた結果、根津・千駄木地域住民は33%、根津・千駄木地域以外の文京区に住んでいる人は22%、東京都内から訪れた人は、28%、その他は15%であった。文京区以外の地域から33%の人が訪れていることは誘致圏の広さを示している。なお、の中には過去に文京区に住んでいて下町まつりに訪れた事がある、という人も含まれている。

6. これまでの来場回数

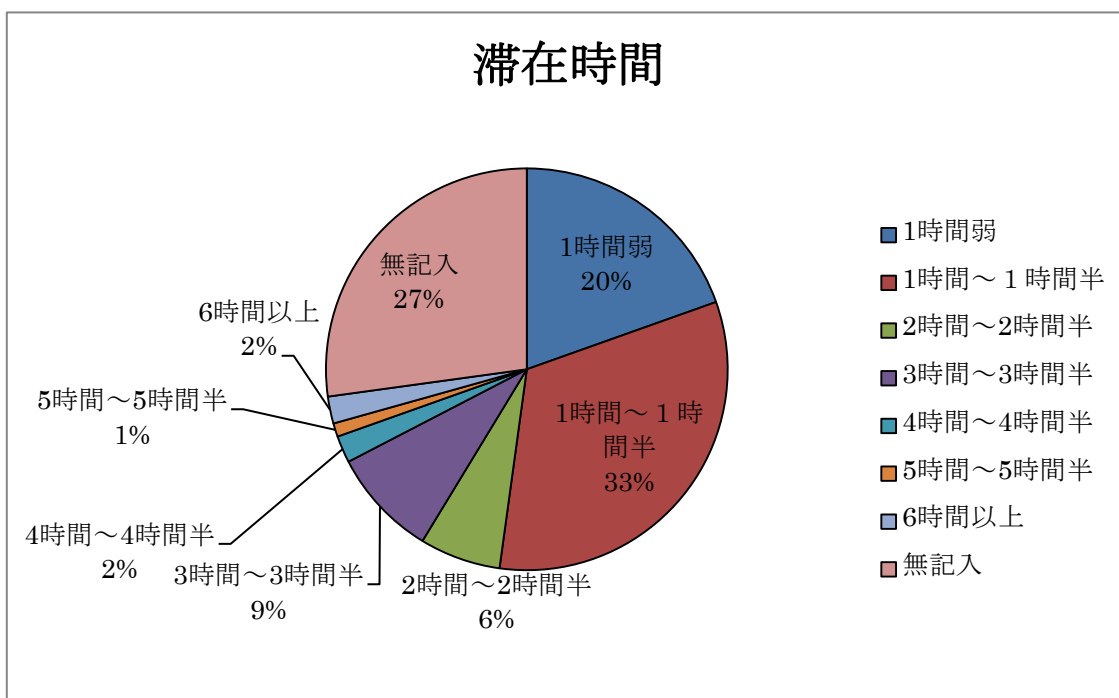


下町まつりを初めて訪れた人は 42%、2 回目は 10%、3 回目は 4%、4 回目は 6%、5 回以上は 37% であった。初めての人が約 4 割ということで、宣伝方法が成功していると分かる。しかし、2・3・4 回目というリピーターと 5 回目以上のリピーターの差が大きくでている。これは、初めて訪れた人の定着がうまく出来ていないのではないかと考える。今後の来場をどのように定着させるか検討する必要があると思われる。

7. 来場時間及び滞在時間



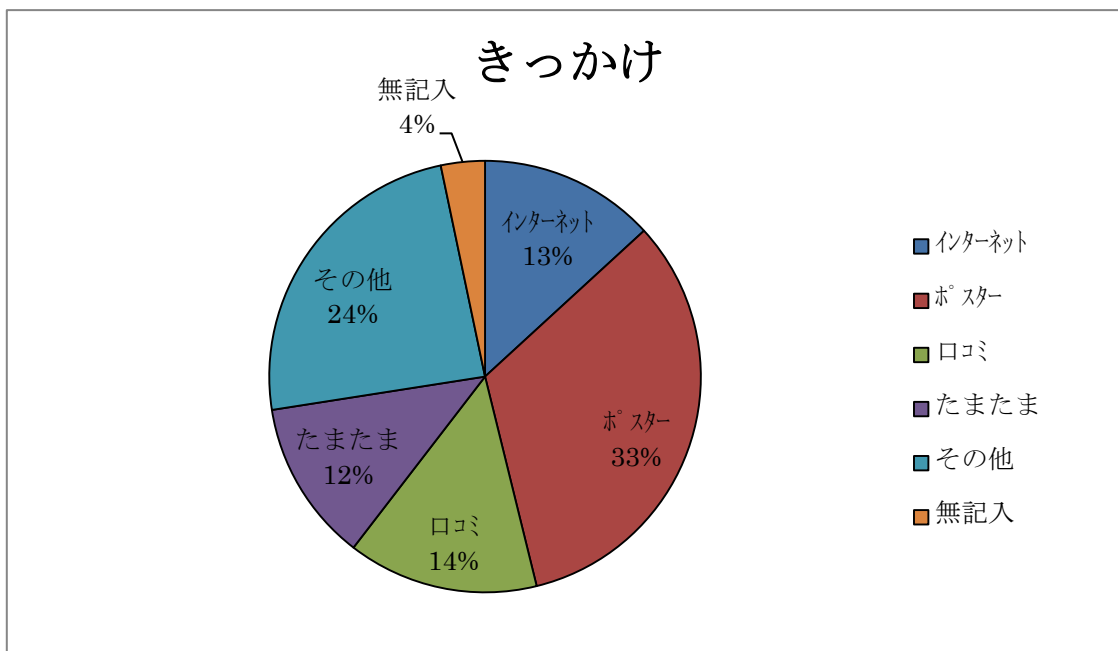
来場者に下町まつりに来た時間をきくと、「11 時～12 時までに来た」がもっとも多い 41%、「12 時～13 時までにきた」が 2 番目に多い 22%であった。



来場者に滞在時間をきいたところ、「1 時間～1 時間半」がもっとも多い 33%、その次に「1 時間弱」と答えた人が多い 20%であった。

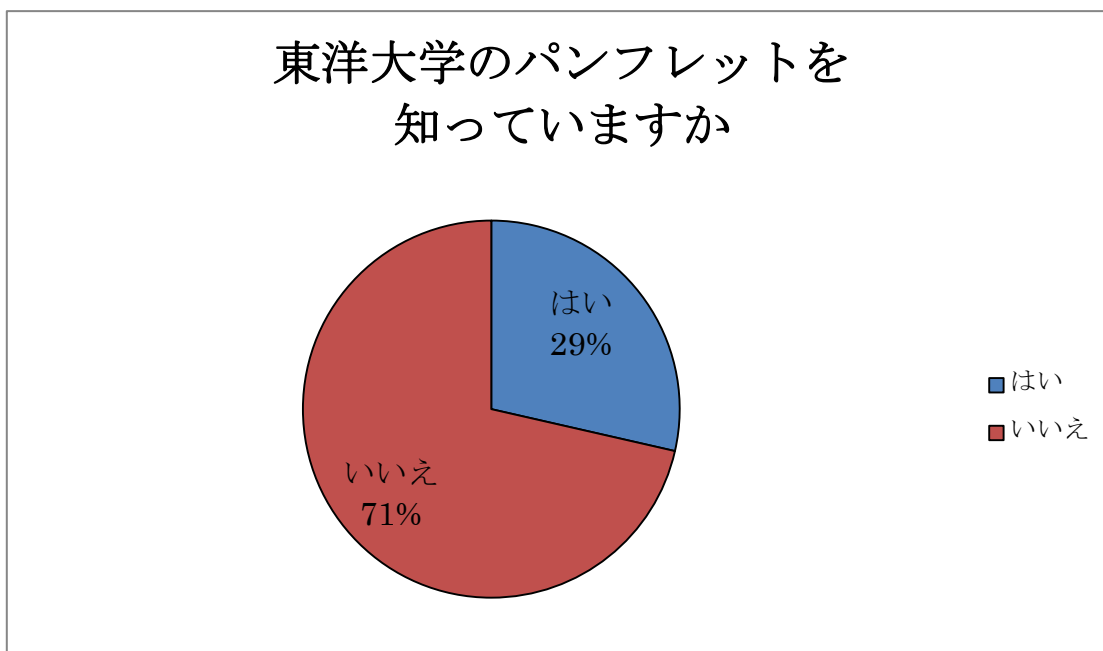
来場時間・滞在時間合わせてみたところ、11 時～13 時の昼の時間帯に根津神社内の人数の増加、また、来場者の入れ替わりの頻度の高さを読み取ることができる。

8. 認知媒体

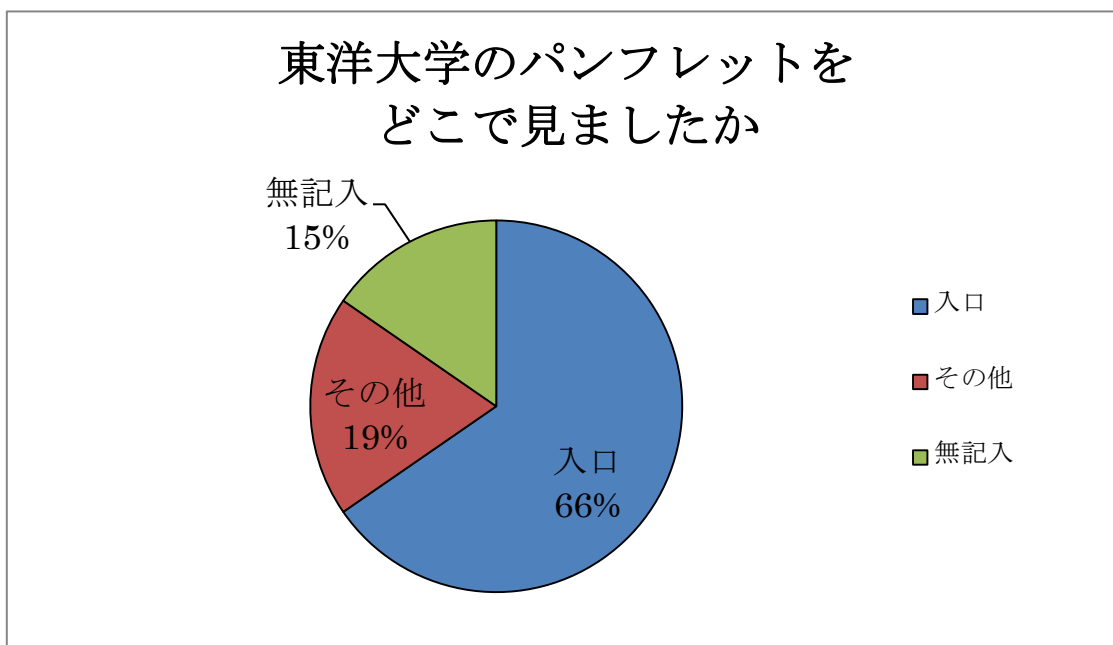


来場者の下町まつりを知ったきっかけは、ポスターが最も多く33%、口コミ14%、インターネットが13%、偶然通りかかって知った人は12%であった。ポスターや口コミなど、地域に根付いているからこそその理由もあるが、インターネットという宣伝方法が13%もある。この宣伝方法を今後も改良を加えていくことが出来れば、遠方からの来場者、新規の来場者、また若者の増加などにつながる。インターネット宣伝は、下町まつりを活性化させるためのカギとなる可能性があると言える。

9. 東洋大学のパンフレットに関する認知状態

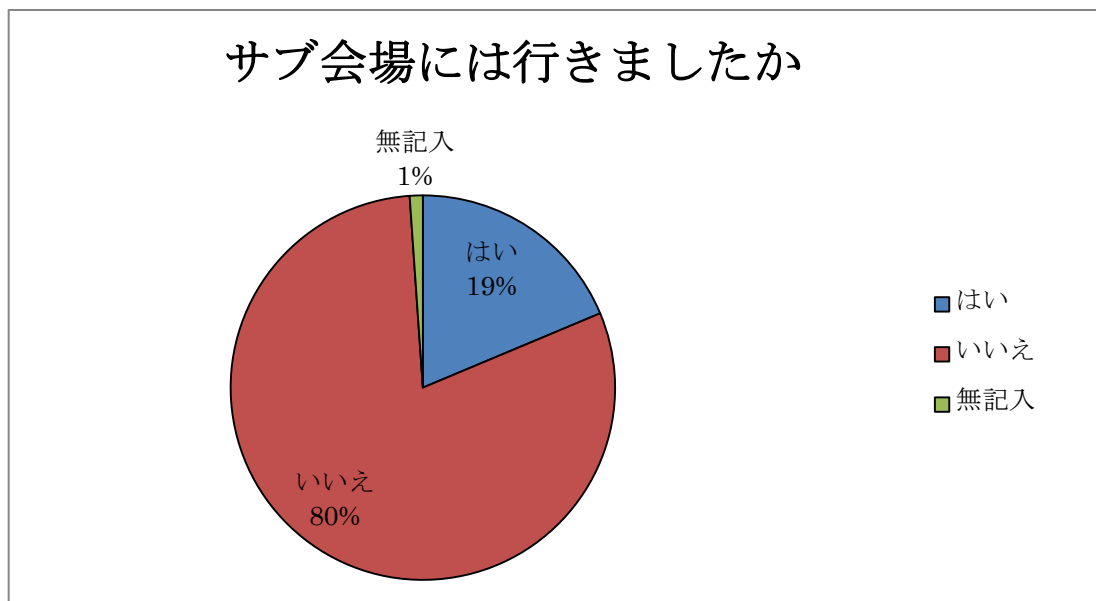


東海林ゼミで作成したパンフレットを知っているか聞いた結果では、「はい」が29%、「いいえ」が71%となった。



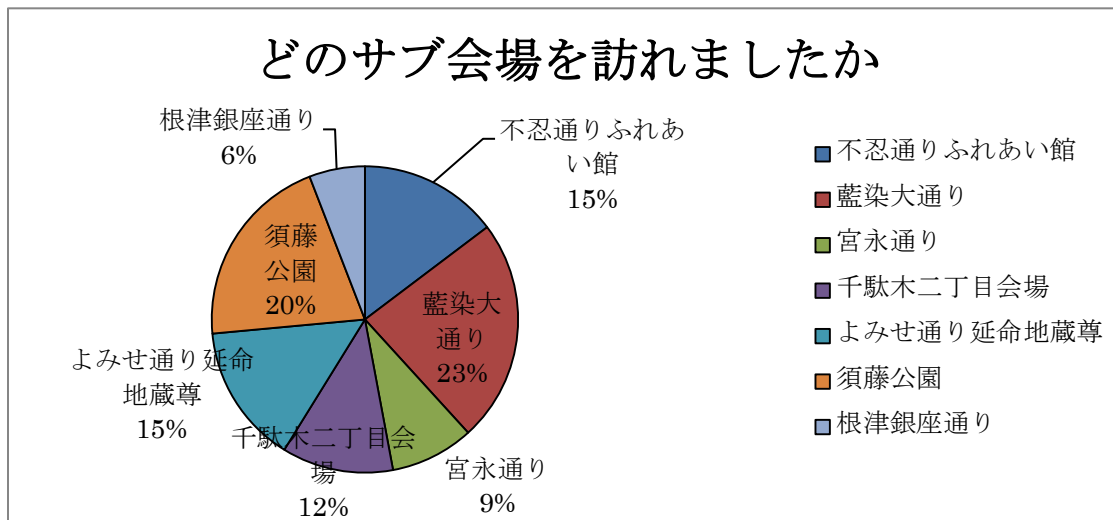
「はい」と答えた人に「どこでパンフレットを見たか」を聞いたところ、「入口でみた」と答えた人が最も多く66%、その他の中には「学校で」という答えもあった。

10. サブ会場への訪問の有無

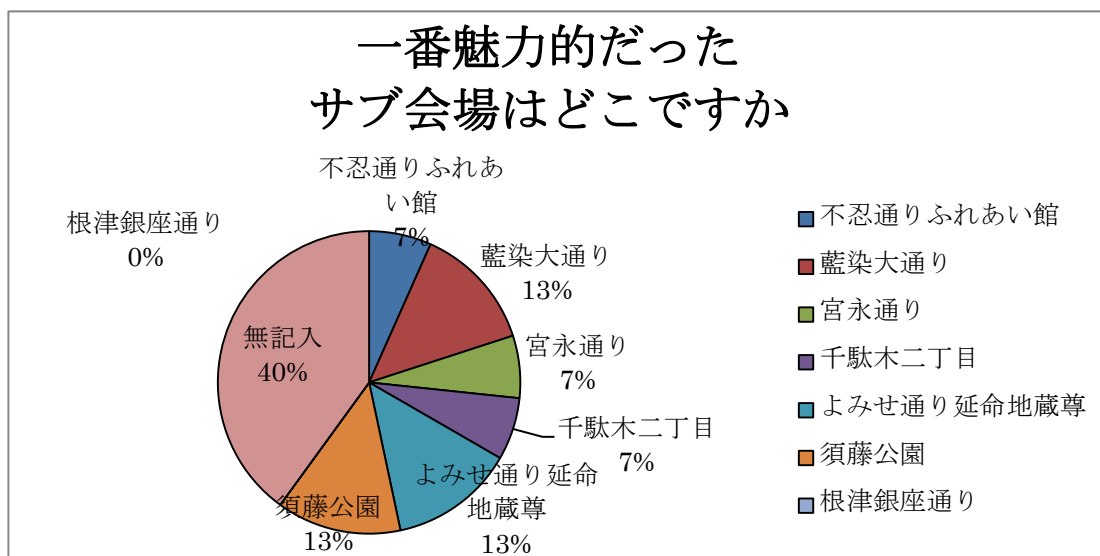


メイン会場来場者に、サブ会場を訪れたかどうかを聞くと、「はい」が19%に対し、「いいえ」と答えた人が80%であった。本調査ではメイン会場のみで行ったため、サブ会場のみの利用者を把握できていないが、メイン会場を経由してサブ会場に行く人が極めて少ないことがわかる。メイン会場とサブ会場のリンクの弱さがこの結果につながっているのではないかと考える。メイン会場とサブ会場は距離が離れていることもあるため、双方の会場でお互いの宣伝をし、つながりと強めることが来場客数の増加にも直結すると考える。

11. 訪れたサブ会場及び感想

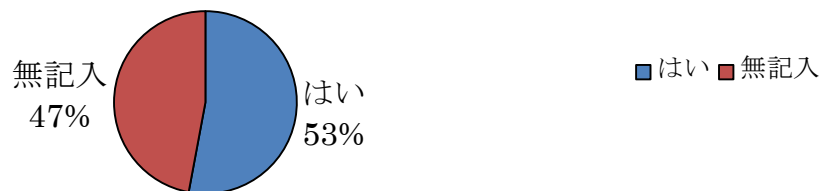


最も利用者が多いサブ会場は藍染大通りの 23%であった。次に多いのは不忍通りふれあい館とよみせ通り延命地蔵尊で両方とも 15%であった。藍染大通りでは和太鼓の演奏、かっぽれが行われていて、このような催しが人気であることが推測される。



魅力的であると思われるサブ会場は藍染大通り、よみせ通り延命地蔵尊、須藤公園の 13%であった。藍染大通りは上記の結果と同様に和太鼓の演奏、かっぽれが行われている。よみせ通り延命地蔵尊は焼そば、子どもくじ、もちつき、須藤公園では趣味の作品展、リサイクルショップが行われており、このような催し物が利用者に好まれていることがわかる。

サブ会場に行ってみて よかったですか

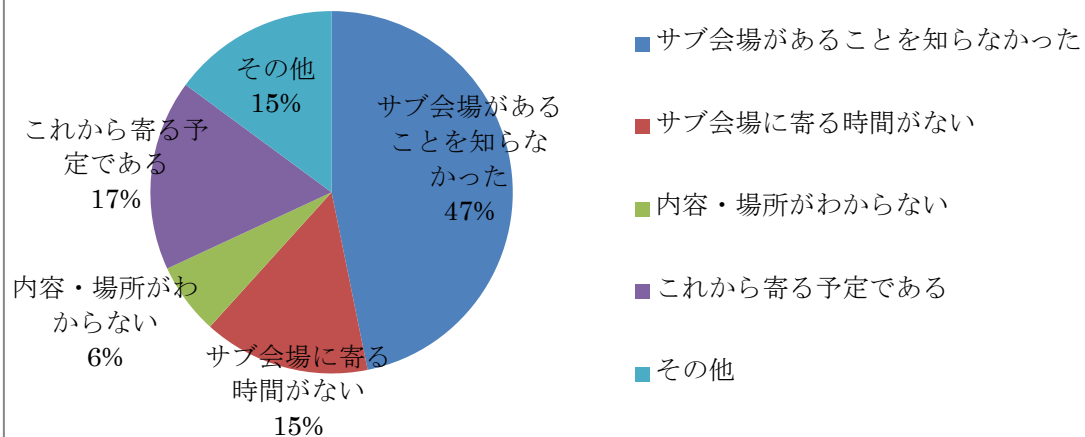


全体の約半数が「はい」(53%)と答えているが、「いいえ」がおらず、無記入のままであったため有効な結果が得られなかった。

だが、調査を実施するなかで、各サブ会場のイベントの時間が重複している、各会場のイベントの時間をずらしてほしいという声があった。そのため、このようなことを改善すればサブ会場に行ってみてよかった人が増えると考えられる。

12. サブ会場に行かなかった理由

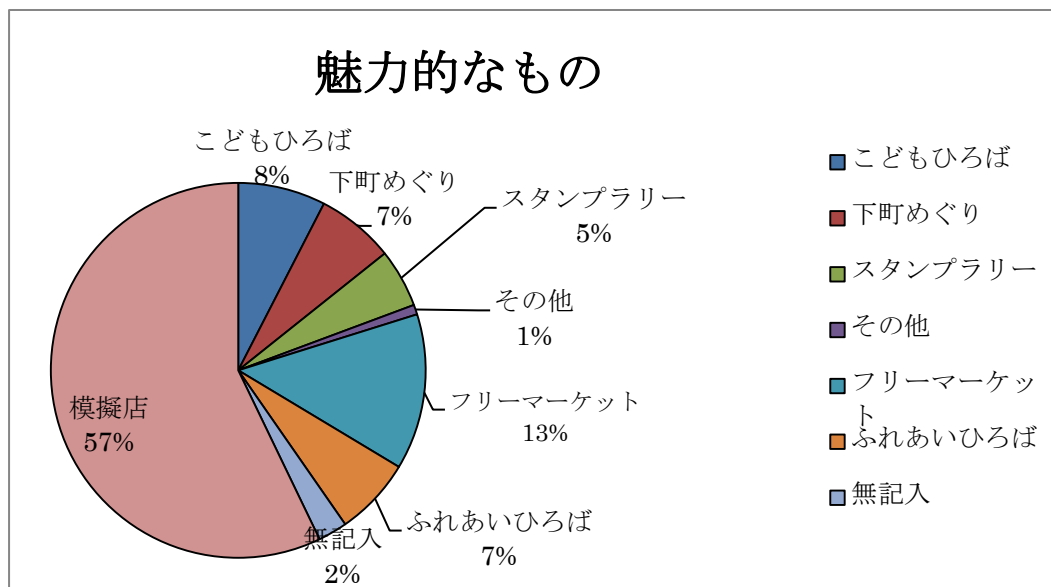
サブ会場に行かなかった理由



行かない理由は「サブ会場があることを知らなかった」(47%)と答えている人が多かった。また、サブ会場はメイン会場から離れているのも一つの要因であり、そのため、「サブ会場に寄る時間がない」(15%)と答えた人もいた。

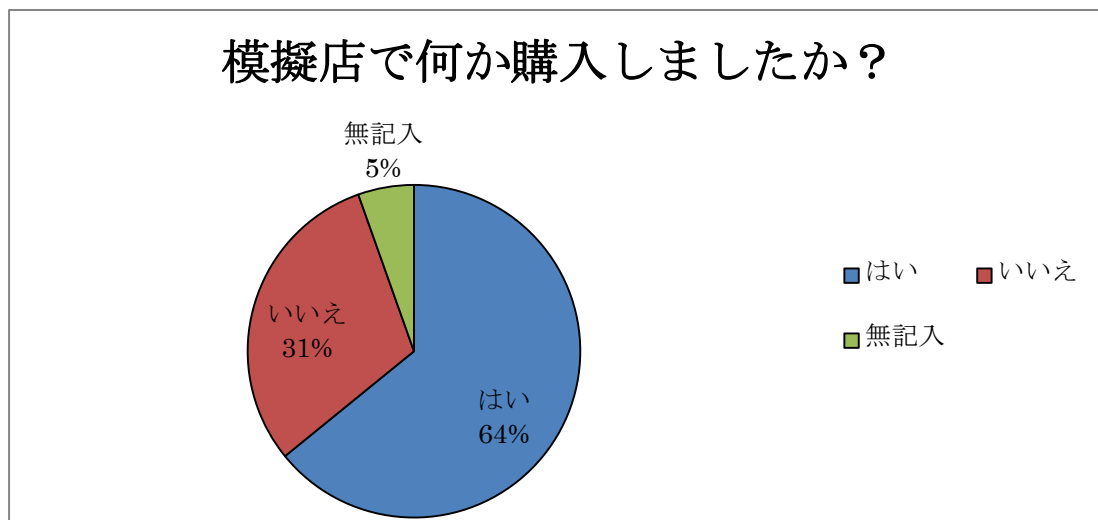
サブ会場の利用者を増やすためには、認知度を高める工夫が必要であると考えられる。例えば、メイン会場にサブ会場の内容・場所を示した案内を掲示することでも認知度が高くなるのではないかとと思われる。

13. 下町まつりの魅力（複数回答可）

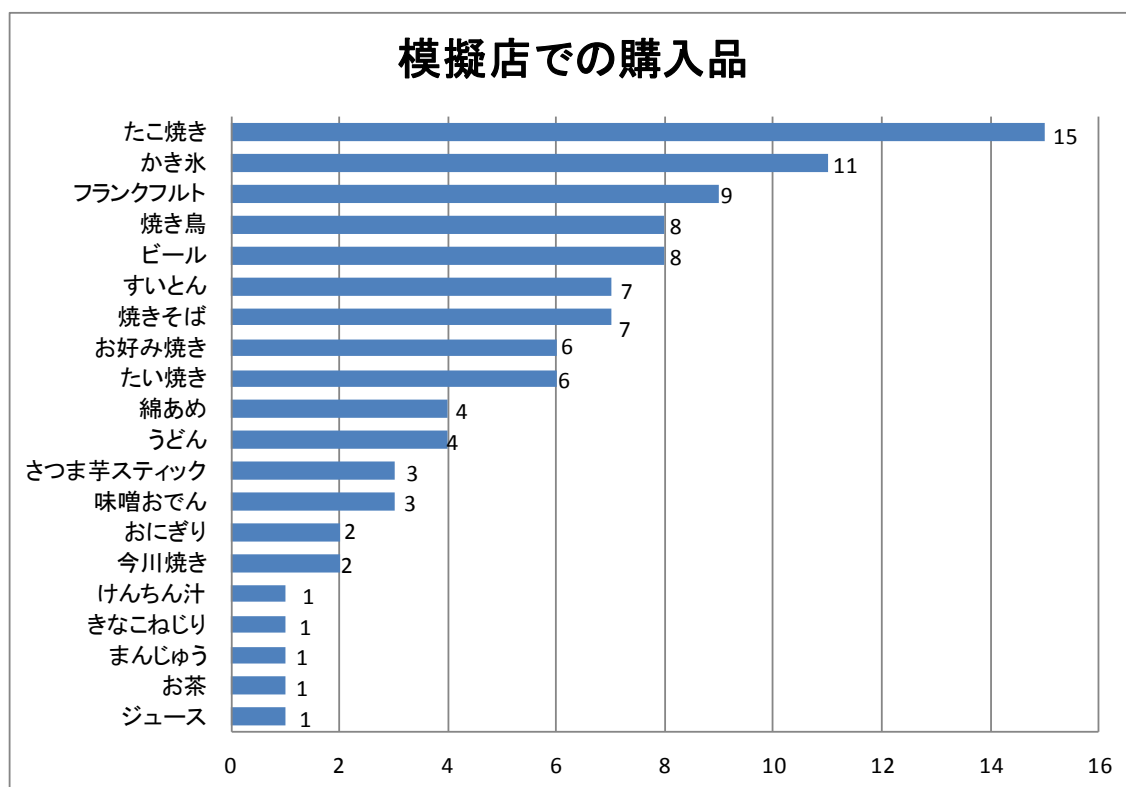


全体の半数が下町まつりで魅力的なものを模擬店(57%)と答え、来場者のほとんどが模擬店を楽しみにしていることが分かった。確かに、模擬店は多くの種類の食べ物が販売されており、充実している。次に多かったのがフリーマーケット(13%)であり、服、雑貨、食器など販売しているため多くの人で賑わっていた。

1 4．模擬店での購入状態

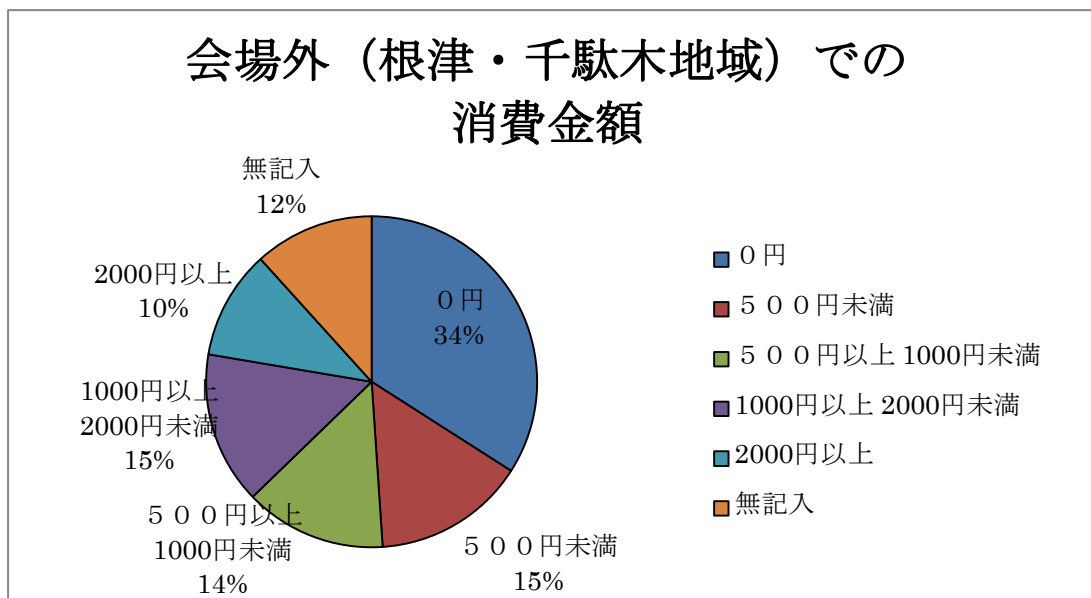


全体の半数以上が模擬店で購入したという結果となり、下町まつりでは模擬店が魅力的であるということが再度確認できた。



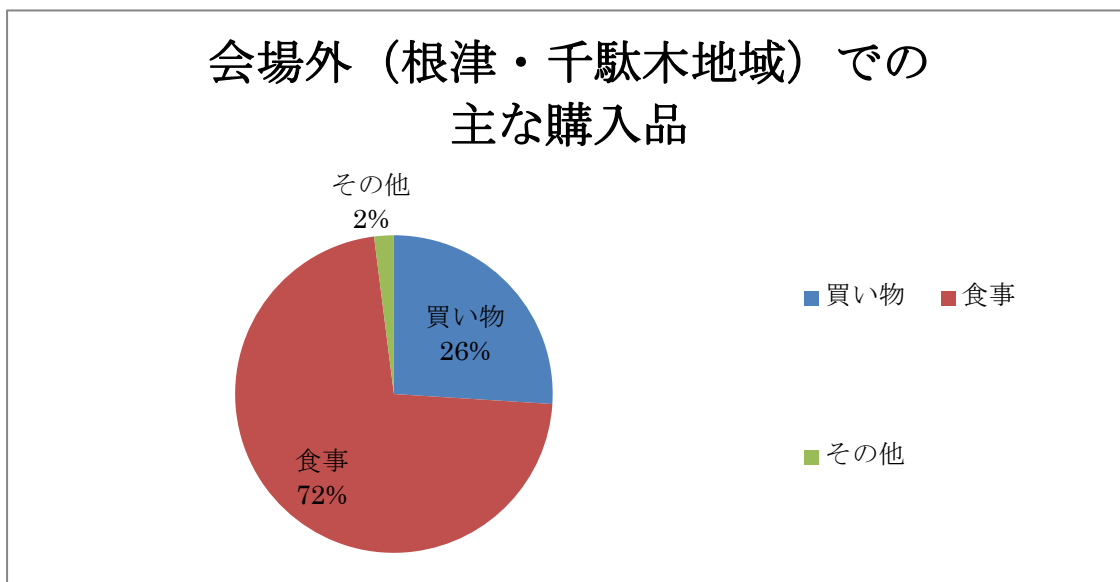
上のグラフからわかるように、突出した人気店があるわけではなく、模擬店では多くの種類の食べ物が販売されているため、利用者の多様なニーズを上手く受け入れ、お客様が分散していることが伺える。

15. 下町まつり以外での根津・千駄木地域における消費状況



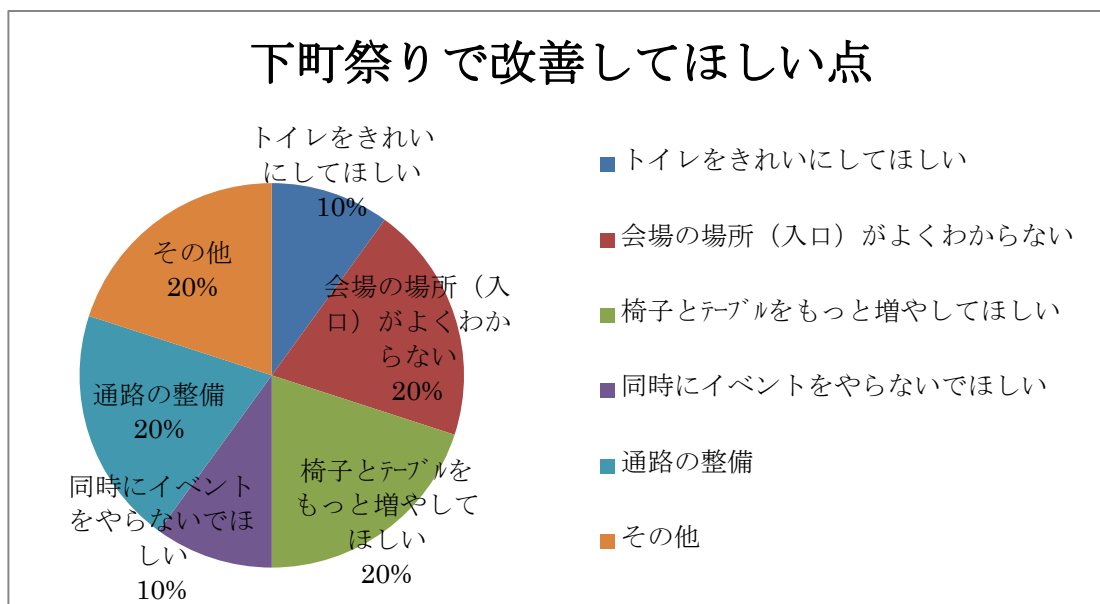
下町まつり以外での消費金額では、0円(34%)と答えた人が最も多く、500円未満(15%)、500円以上1000円未満(14%)、1000円以上2000円未満(15%)、2000円以上(10%)という結果であった。

このことから、根津・千駄木地域への経済効果はあまり高くないことがわかる。



消費行動では、食事(72%)、買い物(26%)という結果となり、ほとんどの人が食事をするために、根津・千駄木地域へ向かったことがわかった。

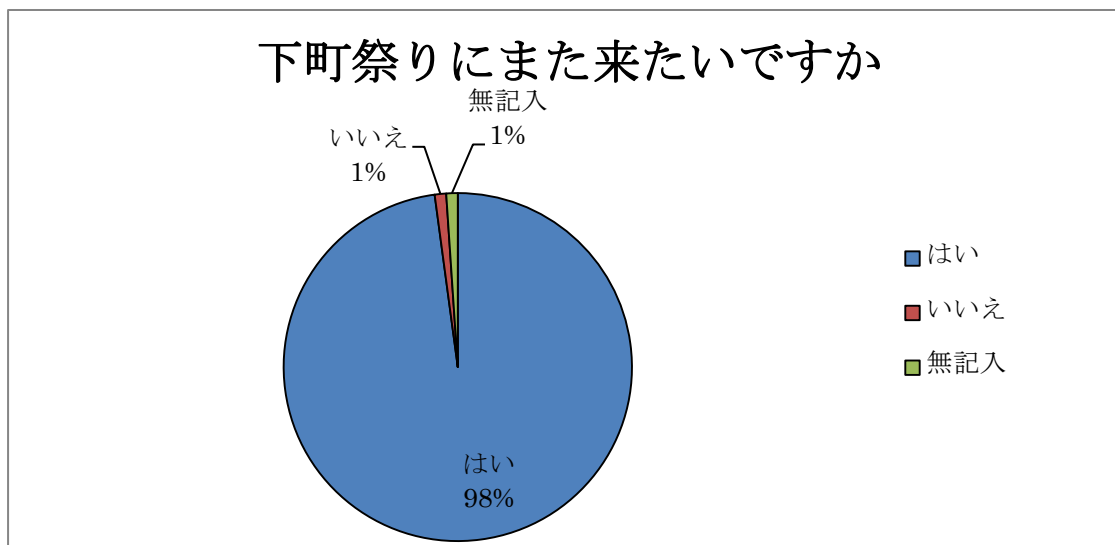
16、下町まつり全体での改善点



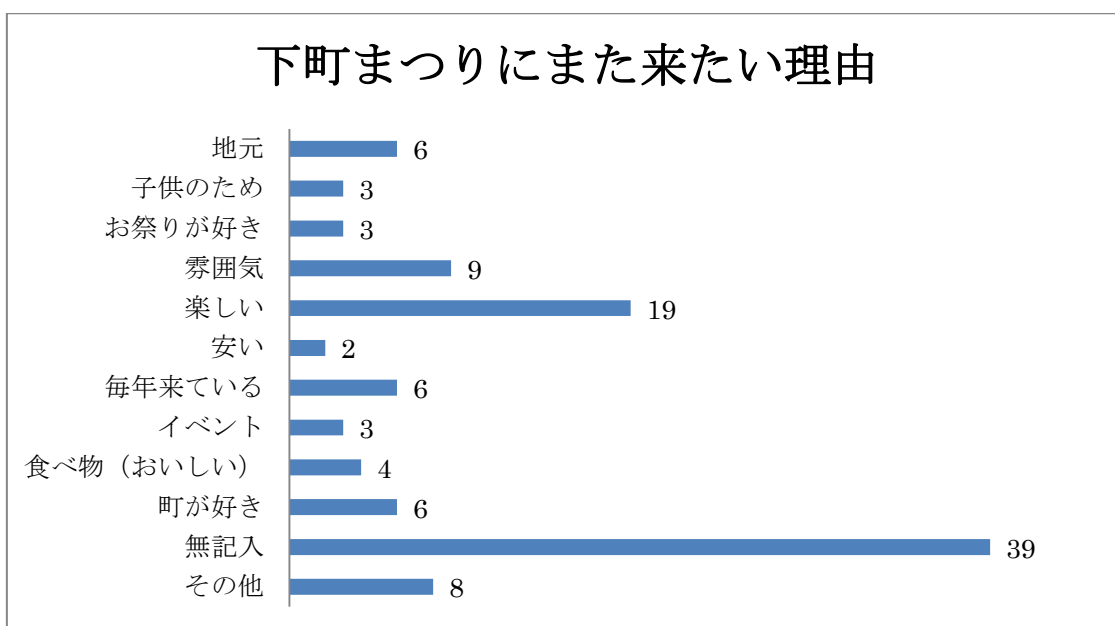
下町まつり全体を通しての改善点を自由記述方式で答えてもらった結果である。「会場の場所(入口)がよくわからない」「椅子とテーブルを増やしてほしい」「通路の整備」がそれぞれ20%であった。

今回は、去年と異なり椅子の数を増やして頂いたが、まだ足りないようである。来場者のほとんどが模擬店に魅力を感じていることを考慮すると、空いているスペースに椅子を置くべきではないだろうかと思われる。以上のことを改善することで、来場者がより下町まつりを楽しめることができ、一層活気に溢れたお祭りになるだろうと考えられる。

17、下町まつりへの再来意志



ほとんどの人が「はい」(98%)と答え、下町まつりに対する満足度を表しているのと思う。



理由は「楽しい」が最も多く、その次が「お祭りの雰囲気が良い」「地元だから」「毎年きているから」「町が好きだから」という意見が多かった。

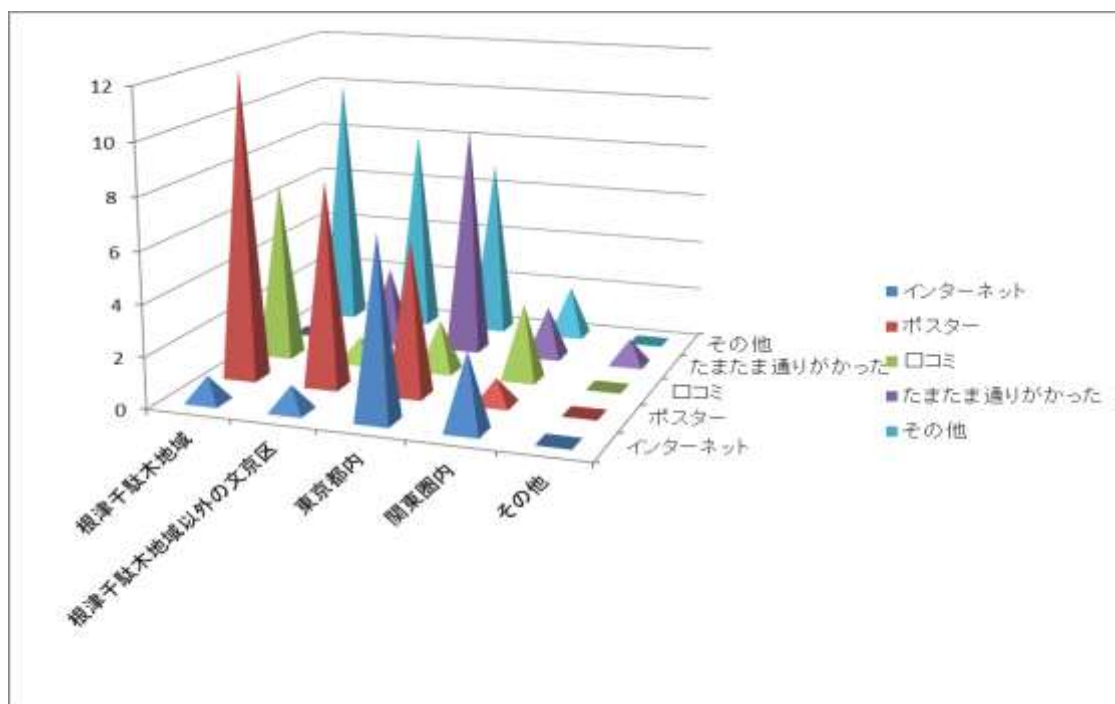
このことから、根津・千駄木下町まつりは地域密着のお祭りであり、人々から親しみや愛着を持たれていることがわかる。

(3) 各質問項目のクロス集計結果

各質問項目のクロス集計結果は、以下の通りである。

①居住地と下町まつりを知ったきっかけ

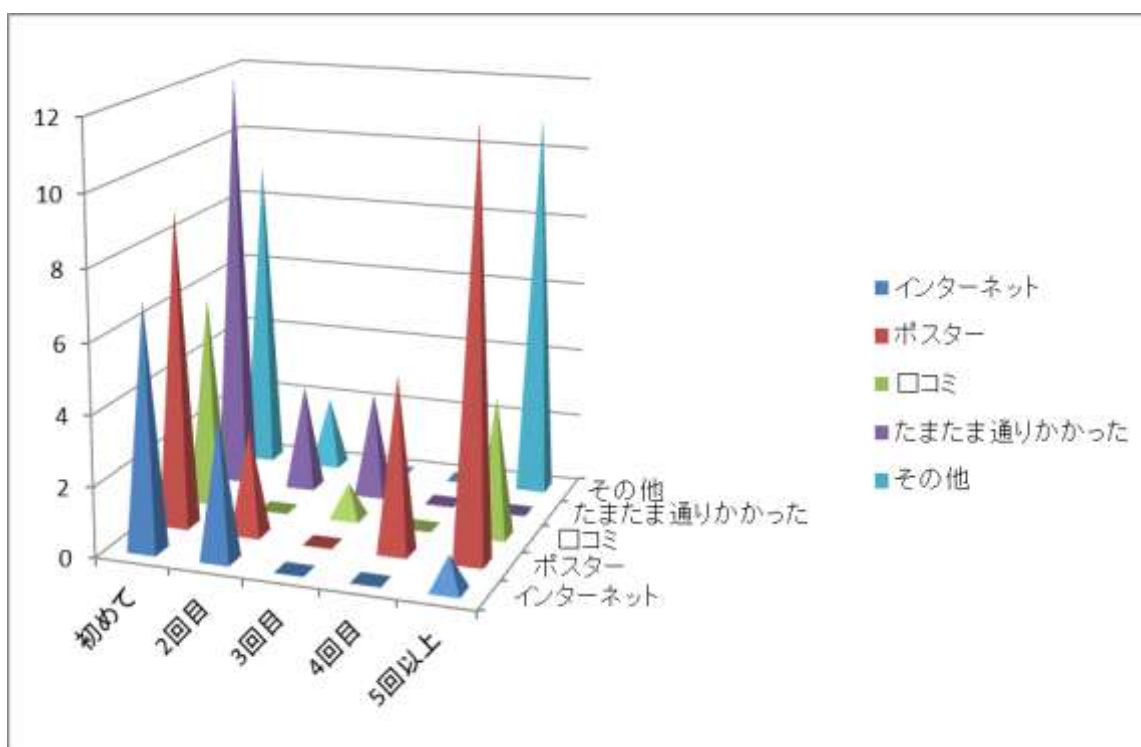
	根津・千駄木地域	根津・千駄木地域以外の文京区	東京都内	関東圏内	その他	合計
インターネット	1	1	7	3	0	12
ポスター	12	8	6	1	0	27
口コミ	7	1	2	3	0	13
たまたま通りがかった	0	3	9	2	1	15
その他	10	8	7	2	0	27
合計	30	21	31	11	1	94



根津千駄木地域からの来場者が下町まつりに来たきっかけではポスターが最も多く、その次がその他（区報など）であった。一方で、東京都内や関東圏内からの来場者が下町まつりに来たきっかけでは、「たまたま通りかかった」が最も多く、その次にインターネットやその他（新聞など）が多い結果となった。遠方の人に対してはインターネット宣伝が効果的であるとわかる。ポスターに注目してみると、根津千駄木地域、根津千駄木地域以外の文京区、東京都内の順に多いことから、お祭りから距離が近ければ近いほど効果が大きいことが分かる。

②来場回数と下町まつりを知ったきっかけ

	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上	合計
インターネット	7	4	0	0	1	12
ポスター	9	3	0	5	12	29
口コミ	6	0	1	0	4	11
たまたま通りかかった	12	3	3	0	0	18
その他	9	2	0	0	11	22
合計	43	12	4	5	28	92

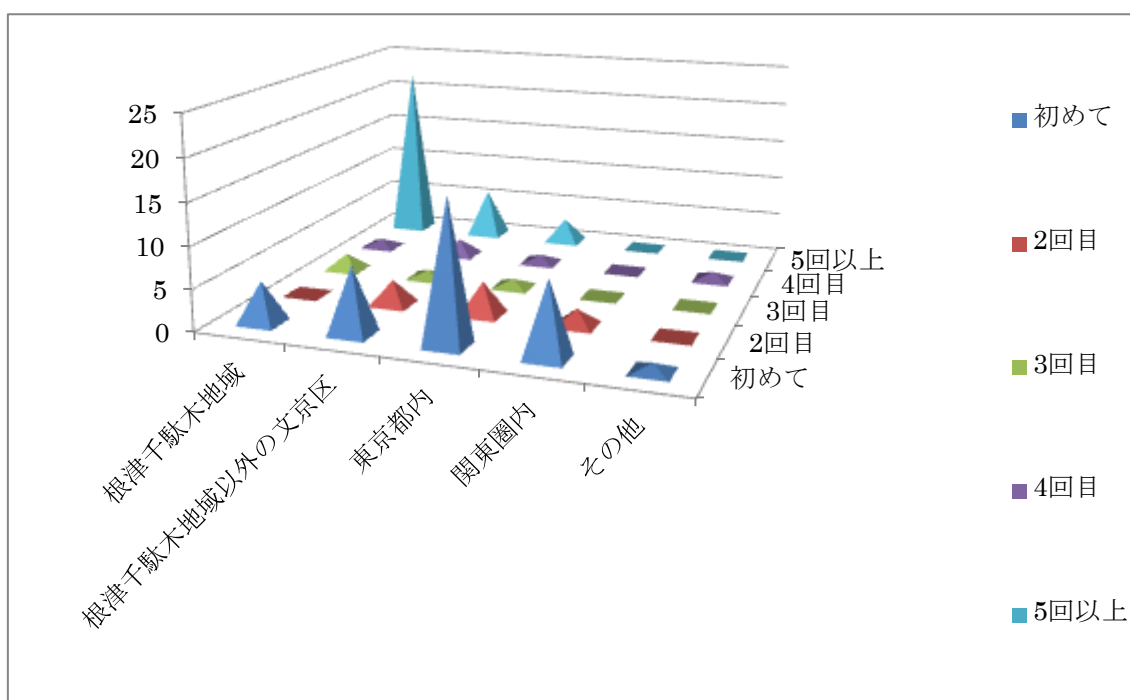


下町まつりに初めて訪れた人のきっかけでは「たまたま通りかかったから」が最も多く、その次がその他（新聞など）とポスターであった。一方、5回以上訪れている人ではポスターが最も多く、その次がその他（区報など）という結果となった。5回以上訪れている人であっても下町まつりの開催日や情報などを地元のポスターなどを便りに情報を得ていたことがわかる。

また、インターネットをみて初めて来場した人も多くみられる。新規来場者を増やすためにもインターネット宣伝が要になると考えられる。

③来場回数と居住地

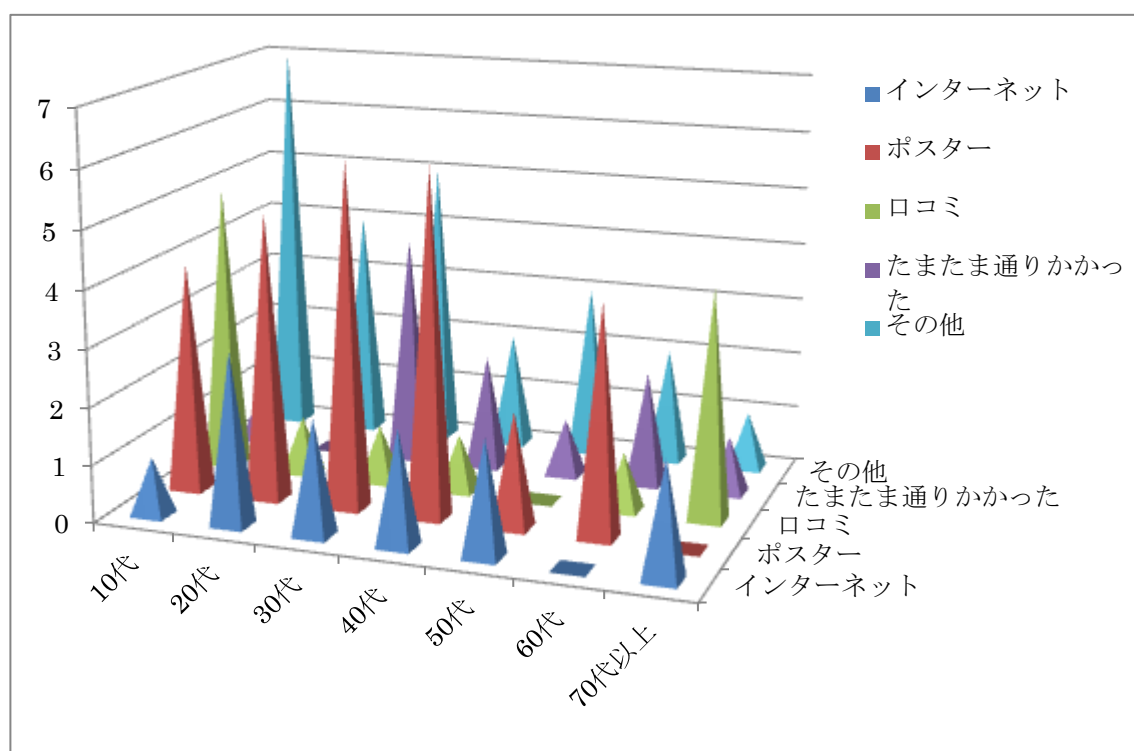
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上	合計
根津千駄木地域	5	0	2	1	22	30
根津千駄木地域以外の文京区	8	3	1	2	6	20
東京都内	17	4	1	1	3	26
関東圏内	9	2	0	0	0	11
その他	1	0	0	1	0	2
合計	40	9	4	5	31	89



居住地別に来場回数を見てみると、下町まつりに初めて来た人と2回目と答えた人では東京都内、関東圏内、根津千駄木地域以外の文京区の順に人数が多いのに対し、5回以上訪れている人では根津千駄木地域、根津千駄木以外の文京区、東京都内と、下町まつりに近い地域から順に来場者が多いことがわかった。

④年齢層と下町まつりを知ったきっかけ

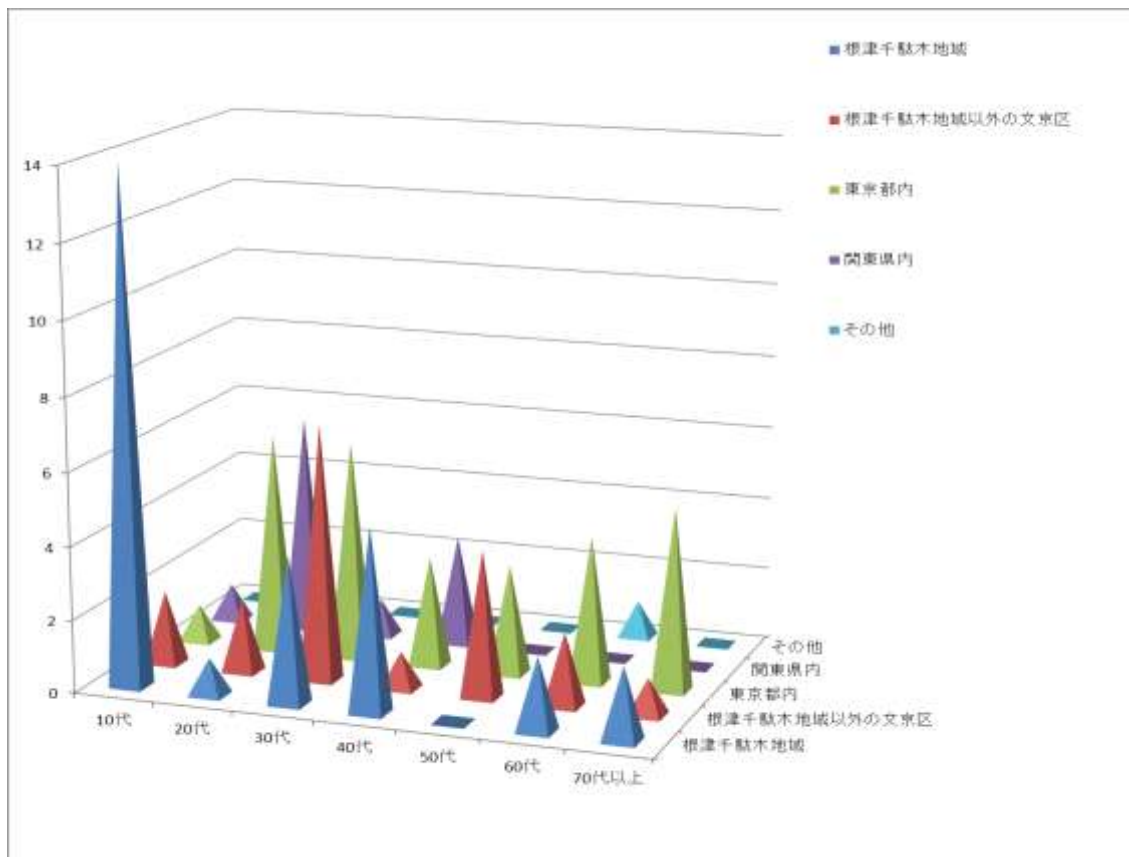
きっかけ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
インターネット	1	3	2	2	2	0	2	12
ポスター	4	5	6	6	2	4	0	27
口コミ	5	1	1	1	0	1	4	13
たまたま通りかかった	1	0	4	2	1	2	1	11
その他	7	4	5	2	3	2	1	24
合計	18	13	18	13	8	9	8	87



下町まつりを知ったきっかけを年代別に見ると、ポスターはすべての年代において人数が多い結果となった。10代と70代の口コミでの人数が多いのは、小学生鼓笛隊のオープニングイベントによるものと、出店者が60代、70代に多かったことが要因として考えられる。10代のその他には友だちの誘いが最も多く含まれている。

⑤年齢層と居住地

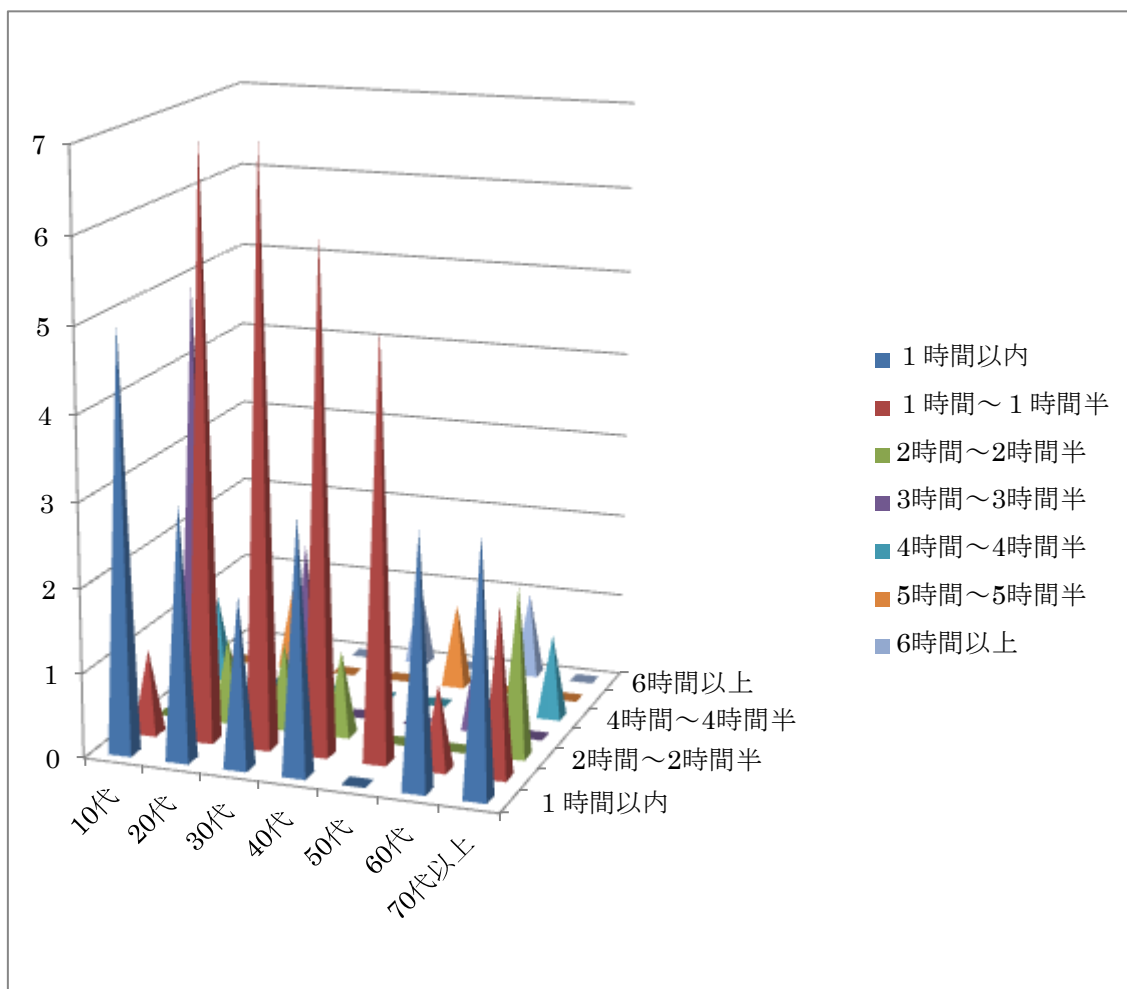
居住地	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
根津千駄木地域	14	1	4	5	0	2	2	28
根津千駄木地域以外の文京区	2	2	7	1	4	2	1	19
東京都内	1	6	6	3	3	4	5	28
関東県内	1	6	1	3	0	0	0	11
その他	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	18	15	18	12	7	9	8	87



全体の来場者では圧倒的に10代の根津千駄木地域住民が多く、根津千駄木地域からの来場者をもってみても、10代が最も多いことから、地元の下町まつりに子供だちが参加していることが伺える。東京都内からは、他の居住地に比べると年齢層が比較的分散しており、20代～70代以上の幅広い層が来場していたことがわかる。

⑥年齢層と滞在時間

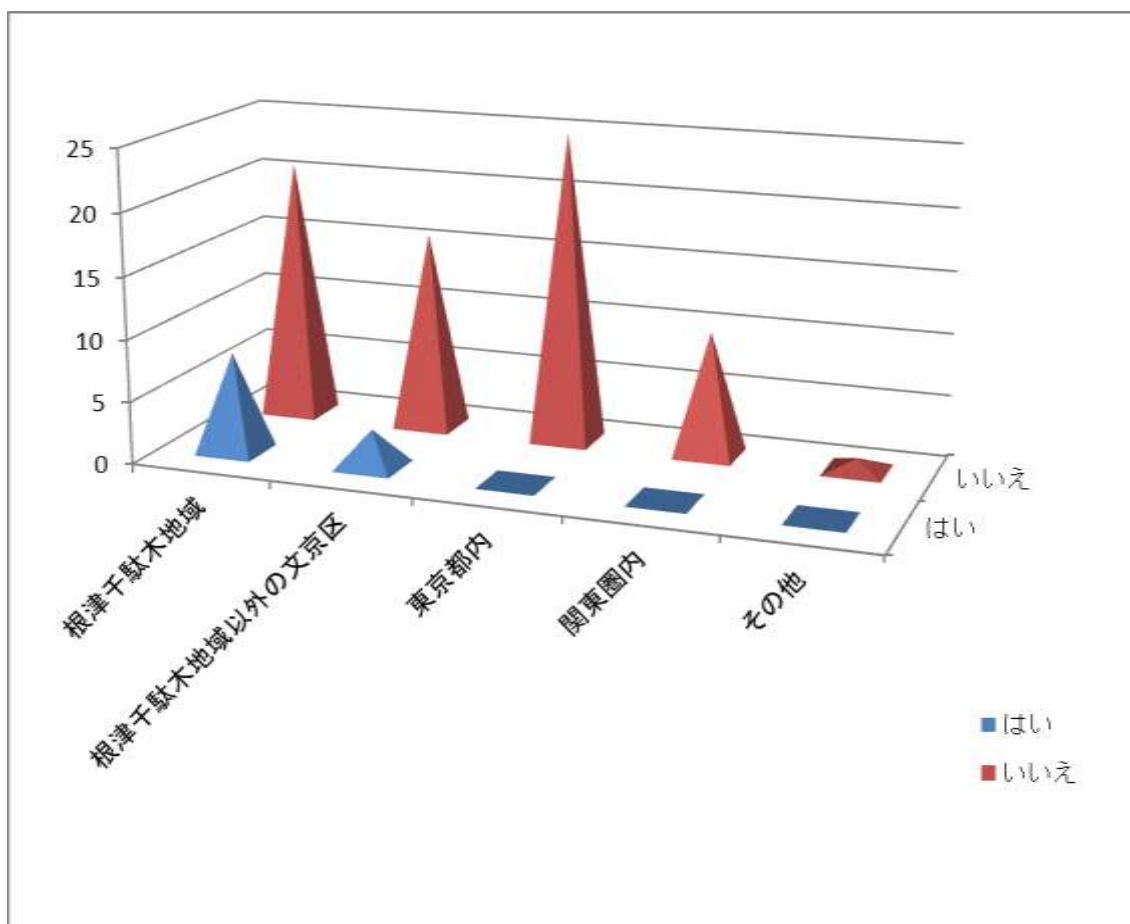
滞在時間	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
1 時間以内	5	3	2	3	0	3	3	19
1 時間～1 時間半	1	7	7	6	5	1	2	29
2 時間～2 時間半	0	1	1	1	0	0	2	5
3 時間～3 時間半	5	0	2	0	0	1	0	8
4 時間～4 時間半	1	0	0	0	0	0	1	2
5 時間～5 時間半	0	1	0	0	1	0	0	2
6 時間以上	0	0	0	1	0	1	0	2
合計	12	12	12	11	6	6	8	67



来場時間が主に 1 時間～2 時間半に集中しているのがわかる。10 代の滞在時間は 1 時間以内の短い滞在時間が最も多く、年齢層があがるにつれて滞在時間も比較的長くなっているようにみられる。

⑦居住地とサブ会場への訪問の有無

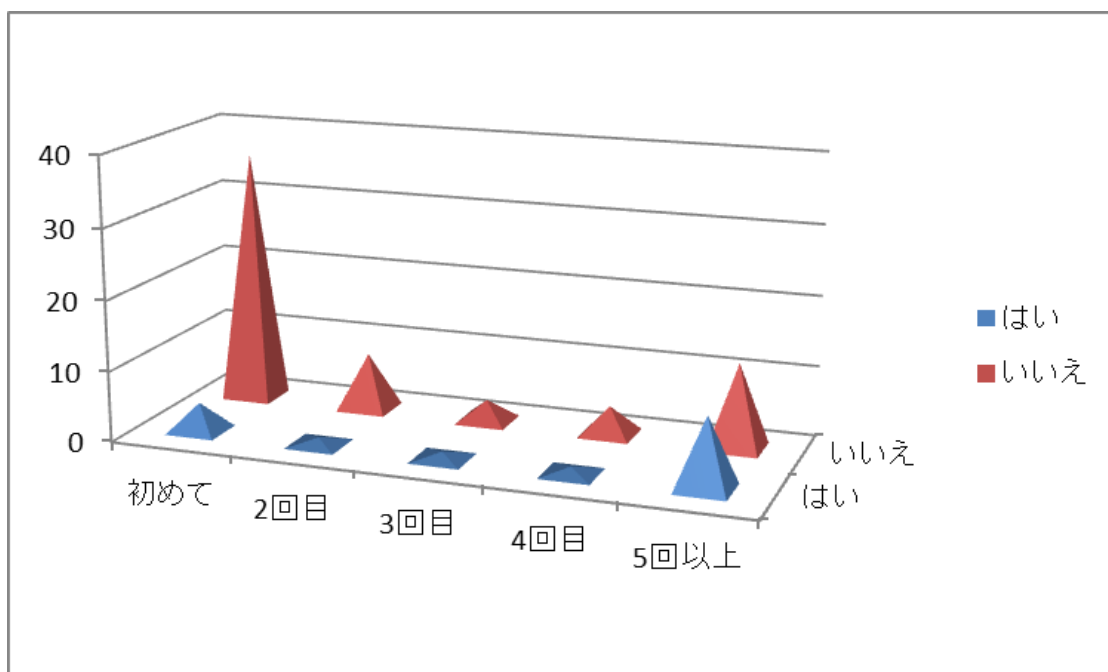
サブ会場	根津千駄木地域	根津千駄木地域以外の文京区	東京都内	関東圏内	その他	合計
はい	8	3	0	0	0	11
いいえ	21	16	25	10	1	73
合計	29	19	25	10	1	84



サブ会場を訪れましたか、という質問に「はい」と答えた人の居住地では、根津千駄木地域が最も多く、その次に根津千駄木地域以外の文京区からの来場者が多いという結果となった。「いいえ」と答えた人に関しては、東京都内が最も多く、その次に近隣住民である根津千駄木地域の住民という結果となった。地域の人以外からもサブ会場への流れを作ること成功しているが、根本的なサブ会場へ来場者が少ない。そのため、メイン会場からサブ会場への流れをよりつくっていく必要があると考える。

⑧来場回数とサブ会場への訪問の有無

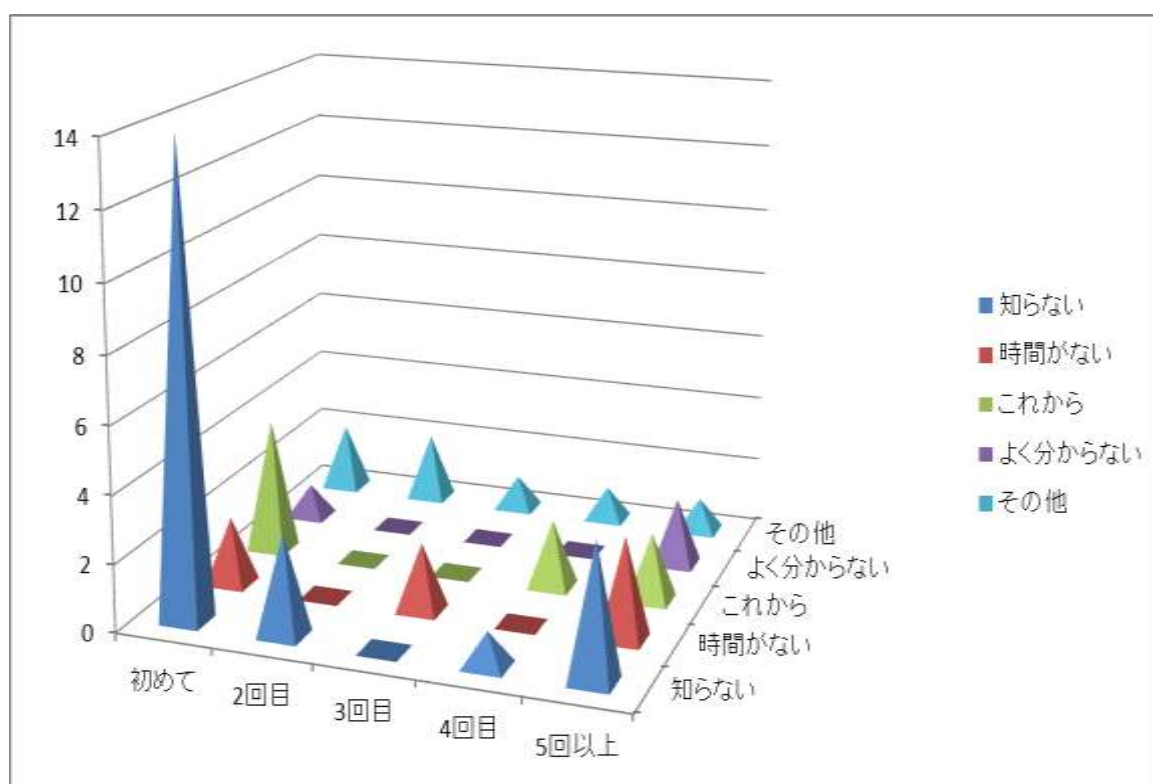
	初めて	2 回目	3 回目	4 回目	5 回以上	合計
はい	4	1	1	1	10	17
いいえ	36	8	3	4	12	63
合計	40	9	4	5	22	80



サブ会場を訪れた人の中では 5 回以上下町まつりを訪れている常連客と、初めて下町まつりを訪れた方の 2 つに多いことがわかった。5 回以上訪れている人であっても「はい」と「いいえ」がほとんど同数であった。

⑨来場回数とサブ会場に行かない理由

お祭り初めて	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上	合計
知らない	14	3	0	1	4	22
時間がない	2	0	2	0	3	7
これから	4	0	0	2	2	8
よく分からない	1	0	0	0	2	3
その他	2	2	1	1	1	7
合計	23	5	3	4	12	47



初めて訪れた人が「サブ会場があることを知らなかった」という回答が圧倒的に多い結果となった。一方で初めて訪れた人の中でも、「これから行ってみようと思う」という回答も少なからずあることから、下町まつりに初めて訪れた人がサブ会場にも興味を示していることが伺える。

また、5回以上訪れた人の中でも「サブ会場を知らない」という理由からサブ会場に行かない人が最も多い結果となった。

(4) 調査結果のまとめ

アンケートの結果を踏まえ、特に以下の 3 つの点に着目して、調査結果に関する考察を行った。

①集客力（宣伝方法：来場者を増やすためには）

下町まつり来場者の居住地では、根津・千駄木地域が最も多く（33%）、続いて東京都内（25%）、根津・千駄木地域以外の文京区（22%）という結果になった。

また、来場者の居住地と下町まつりを知ったきっかけをクロス集計した結果では、根津・千駄木地域を含めた文京区に住んでいる人の下町まつりを知ったきっかけではポスターが最も多いのに対し、東京都以外の関東圏からの来場者が下町まつりを知ったきっかけはインターネットが最も多い結果となった。

このことより、ポスターが根津・千駄木地域住民の下町まつりを知るきっかけとして大きな効果を表している一方で、東京都以外の関東地域からの来場者を呼ぶためにはインターネット、口コミによる宣伝にも力をいれなければならないことがわかる。

上記の結果に加えて、初めて下町まつりを訪れたと答えた人が下町まつりを知ったきっかけでは、「たまたま通りかがったから」が最も多く、その次がポスター、インターネットという結果となった。また、神社外から下町まつりを行っていることが分かりにくいという意見もあることから、下町まつり“当日”の入り口や周辺地域の宣伝も来場者数の増加につながる大きな効果が期待できるといえる。

<改善案>

- ◎ インターネットによる宣伝（例：根津・千駄木下町まつりの特設 HP をつくる、東京の観光（HP）に情報を載せる等）
- ◎ 入り口や周辺地域における“当日”の宣伝（例：日本医科大学側の入り口付近にも模擬店を置く、白山駅から神社までの道のりの案内板設置等）

②サブ会場について

サブ会場には行きましたか、という質問では、「いいえ」が最も多く（80%）、その理由として「サブ会場があることを知らなかったから」という意見が最も多かった。

このことから、サブ会場の宣伝方法の改善によっては集客増加が期待できるといえる。

サブ会場を訪れたと答えた人は、平均 3 つのサブ会場を回っていることがアンケートの結果よりわかった。さらに、サブ会場を訪れた人の意見では、自然がたくさんあり、子供と歩くのにちょうどよかった、歩くことで周辺地域の下町情緒をより感じる事ができた等があった。サブ会場を複数回りながら、根津・千駄木地域を歩くことで、下町まつりだけでなく周辺地域の新たな魅力発見や誘致へ結びつき、周辺地域の活性化へつながるとい

える。

<改善案>

◎ メイン会場⇄サブ会場のつながりを強める

(例：人力車のシャトル便を出す、メイン会場の出入り口でサブ会場が載っている根津・千駄木地域の地図をくばる、サブ会場⇄メイン会場までの道のりを示す等)

③お祭りの魅力（リピーターを増やすためには）

来場者に下町まつりの魅力は何かを聞いてみると、5回以上下町まつりに訪れたことがある人の答えでは、「毎年来ているから」「近所に住んでいるから」などの答えであるのに対し、初めて下町まつりに訪れた人の答えでは、「子供と地域につながりをもってほしいから」「土地に愛着があるから」「模擬店で色々なものを食べたいから」など、回答に多様性が見られた。このことから、お祭りの魅力は初めて訪れた人にも十分に伝えることができているといえる。

表2 下町まつりに初めて訪れたと答えた人のまた下町まつりに来たい理由

●地域に関して	
もっとこの地域について知りたい	子供と地元につながりをもってほしい
土地に愛着がある	地域を散策することができる
●模擬店に関して	
おいしい	色々なものを食べてみたい
●お祭り全体に関して	
おもしろい	お祭りが好き
日本の風情を感じた	

しかし一方で、来場者に下町まつりを訪れた回数を聞くと、初めて訪れた人と5回以上訪れた人がそれぞれ全体の約3分の1を占めているのに対し、2回目、3回目、4回目と答えた来場者は少なかった。また、5回以上と答えた人は周辺地域住民が多いのに対し、初めて訪れた人は東京都内からの来場者が最も多い結果となった。

<改善案>

◎ お祭りを楽しんだ初来場の人をリピーターにつなげる（例：前年のお祭りと同じところ・同じところを、HP上で取り上げてみることで、去年きた人の興味ひき、または思い出を刺激し、また来たいと思わせる等）

4 メイン会場における来場客数調査

(1) 調査目的

本調査は、根津・千駄木下町まつりにおける来場客数をある程度把握をすることで、今後のおまつりの促進や円滑な進行に貢献することを目的として実施したものである。

(2) 実施方法

3つの出入口についての2日間にわたる悉皆調査は人員配置の関係で困難であったことから、ある一定の時間帯における正門からの来場者数をもとに1日の利用者数を推計する手法を用いて実施することとした。具体的な推計手法であるが、時間帯別の利用者数の変動率については、たい焼き及びたこ焼きの時間帯別の販売個数の変動率を用いるとともに、3つの入口の利用者数の比率については、ある一定時間の利用者数の比率を用いることとした。

このため、調査は次の3つに分けて実施した。

①入口別来場者数割合調査

ア. 実施理由

根津神社には3つの入口があるが、人員配置の関係で3か所すべてを一度に調査することはできない。そのため、ある時間を定めて各入口の写真を撮ることにより、来場者の割合を算出・推測する方法で実施したものである。

イ. 日時

平成23年10月15日（土）14時15分

平成23年10月16日（日）14時15分

ウ. 調査方法

指定の時間に各三か所の入り口を撮影する。その写真をもとに、人数を数え、そこから入口別の来場客数を割合を算出する。また、この時の撮影条件は以下のものである。

- ・撮影は門の内側から行う
- ・カメラに門が全体入る位置から撮影する
- ・カウントするのは門の内側にいる人のみとする

②正門における来場客数調査

ア. 実施理由

その来場者を一定時間カウントした結果をもとに、時間帯別の利用者数の変動を加味して

1日の来場客数を推計するために実施したものである。正門を選んだ理由であるが、正門を利用する来場者が最も多いことから、入口別の人数をより少ない誤差で割り出しやすいためである。

イ．日時

平成23年10月15日（土）14時30分～15時

平成23年10月16日（日）14時30分～15時

ウ．実施方法

それぞれカウンターを用いて、ある一定のラインを定め、そこを通過した人のみをカウントしていく。カウントするのは社内へと向かう人のみである。

③販売個数調査

ア．実施理由

購入率（利用者のうちの商品を購入する人の割合）は全ての時間帯において一定の割合で推移するという前提条件のもとで、1日における販売個数から利用者数の時間帯別の変動を推計するために実施したものである。言い換えれば、販売個数と利用者数の時間帯別の変動傾向は同値であるとみなして、ある時間帯の部分的な利用者数から1日全体の利用者数を割り出すために実施したものである。

イ．日時

平成23年10月15日（土）10時～16時30分

平成23年10月16日（日）10時～16時30分

ウ．実施方法

会計が終わった注文票を袋にいれ、その袋を30分ごとに回収をして集計を行った。

（3）調査結果

来場客数を割り出す上で、以下のものが成り立つと仮定をして、2日間の利用者数を推計した。

- ・入口における来場客の利用の割合は一定すべての時間帯において一定である。
- ・正門の来場客数とたい焼きの販売個数は比例する。

1) ケース1の推計結果

①入口別来場客数割合

ア. 10月15日



<正門>



<北参道口坂上>



<北参道口坂下>

上記の写真より15日における入口別来場客数の割合は以下のとおりである。

正門	北参道口坂上	北参道口坂下
1	0.06	0.41

イ. 10月16日



<正門>



<北参道口坂上>



<北参道口坂下>

上記の写真より16日における入口別来場客数の割合は以下のとおりである。

正門	北参道口坂上	北参道口坂下
1	0.23	0.32

②正門における来場客数

ア. 10月15日 14:30~15:00

男性が195人、女性が274人、合計469人が来場した。

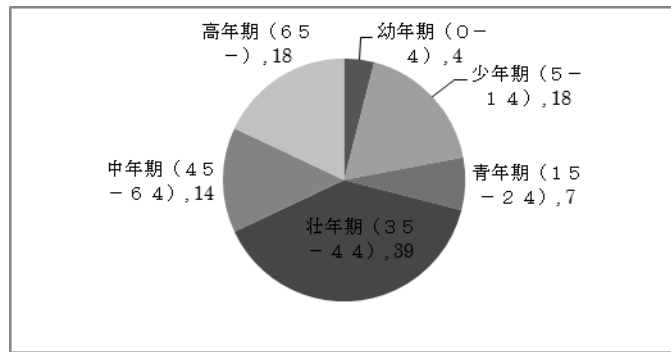
イ. 10月16日 14:30~15:00

男性が382人、女性が502人、合計884人が来場した。

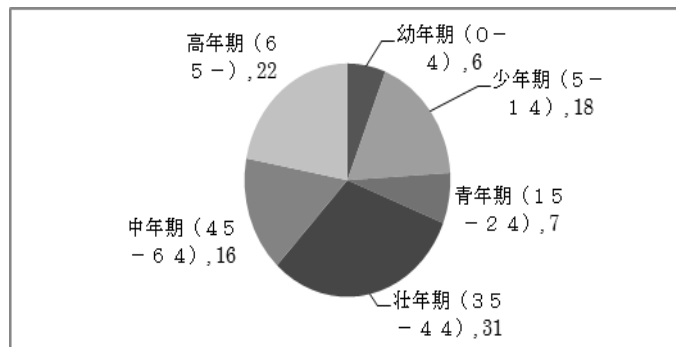
【備考】

調査をした各日の30分間の来場客数の内訳は以下の通りである。

①10月15日



②10月16日



<1日の来場客数>

二日間のたい焼きの販売個数は以下の通りである。

<たい焼きの販売個数>

	2011. 10.15	2011. 10.16	平均
10:00～10:30	11	2	6.5
10:30～11:00	29	19	24
11:00～11:30	47	11	29
11:30～12:00	17	27	22
12:00～12:30	15	15	15

12:30～13:00	28	22	25
13:00～13:30	25	12	18.5
13:30～14:00	6	37	21.5
14:00～14:30	64	37	50.5
14:30～15:00	25	67	46
15:00～15:30	30	31	30.5
15:30～16:00	22	37	29.5
16:00～16:30	14	26	20
合計	333	343	338

来場客数を同等な指標で割り出すために上記の二日間の販売個数の平均を用いた。このとき、たい焼きの販売個数が来場客数に比例することが成り立つと仮定をした。また、正門からの14時30分から15時までの来場客数は15日が469人、16日が884人である。これと14時30分から15時までのたい焼きの販売個数より以下のことが推測できる。

＜たい焼き1個販売ごとの来場客数＞

	人／個
15日	10
16日	19

これらと（1）の入口別来場客数割合をもとに、各入口からの1日の来場客数を割り出すと、次のような結果が出た。

<1日の来場客数>

① 10月15日

	正門	北参道口坂上	北参道口坂下	合計
10:00～10:30	65	3.9	26.65	95.55
10:30～11:00	240	14.4	98.4	352.8
11:00～11:30	290	17.4	118.9	426.3
11:30～12:00	220	13.2	90.2	323.4
12:00～12:30	150	9	61.5	220.5
12:30～13:00	250	15	102.5	367.5
13:00～13:30	185	11.1	75.85	271.95
13:30～14:00	215	12.9	88.15	316.05
14:00～14:30	505	30.3	207.05	742.35
14:30～15:00	469	28.14	192.29	689.43
15:00～15:30	305	18.3	125.05	448.35
15:30～16:00	295	17.7	120.95	433.65
16:00～16:30	200	12	82	294
合計	3389	203.34	1389.49	4981.83
≒	3389	203	1389	4981

② 10月16日

	正門	北参道口坂上	北参道口坂下	合計
10:00～10:30	123.5	28.405	39.52	191.425
10:30～11:00	456	104.88	145.92	706.8
11:00～11:30	551	126.73	176.32	854.05
11:30～12:00	418	96.14	133.76	647.9
12:00～12:30	285	65.55	91.2	441.75
12:30～13:00	475	109.25	152	736.25
13:00～13:30	351.5	80.845	112.48	544.825
13:30～14:00	408.5	93.955	130.72	633.175
14:00～14:30	959.5	220.685	307.04	1487.225
14:30～15:00	884	203.32	282.88	1370.2
15:00～15:30	579.5	133.285	185.44	898.225
15:30～16:00	560.5	128.915	179.36	868.775
16:00～16:30	380	87.4	121.6	589
合計	6432	1479.36	2058.24	9969.6
≒	6432	1479	2058	9969

以上の結果から、15日の総来場客数は4981人、16日の総来場客数は9969人、合計14950人であると推測される。

2) ケース2の推計結果

実際にカウンターを持って調査を行えたのは正門における14:30～15:00までの30分間だけである。そのため、(3)で出た結果はあくまでの推測のひとつにすぎない。そこでケース1の推計結果の係数を変え、北参道口より正門からの方が多く来場者が利用していたと感じ、3つの出入口における利用者数の差は「1:0.5:0.5」とであるとみなした。また、時間帯別の利用者数の変動はたい焼きの販売個数とは違って昼時に多いため、時間帯によって来場客数に変動がある。その比率は、利用実態調査における来場時間・滞在時間を参考に、また、実際に出店をして感じたことを考慮し、推計を行った。

ア. 3つの出入口における利用者の比率

正門	北参道口坂上	北参道口坂下
1	0.5	0.5

イ. 時間帯別の利用者の比率

時間(30分単位)	比率
10:00～11:00	0.8
11:00～13:00	2.5
13:00～14:30	2
14:30～15:00	1
15:00～16:30	0.8

上記の仮定をもとに一日の来場客数の変動を割り出すと次のような結果がでた。

① 10月15日

	正門	北参道口坂上	北参道口坂下	合計
10:00~10:30	375.2	187.6	187.6	750.4
10:30~11:00	375.2	187.6	187.6	750.4
11:00~11:30	1172.5	586.25	586.25	2345
11:30~12:00	1172.5	586.25	586.25	2345
12:00~12:30	1172.5	586.25	586.25	2345
12:30~13:00	1172.5	586.25	586.25	2345
13:00~13:30	938	469	469	1876
13:30~14:00	938	469	469	1876
14:00~14:30	938	469	469	1876
14:30~15:00	469	234.5	234.5	938
15:00~15:30	375.2	187.6	187.6	750.4
15:30~16:00	375.2	187.6	187.6	750.4
16:00~16:30	375.2	187.6	187.6	750.4
合計	9849	4924.5	4924.5	19698
≡	9849	4925	4925	19699

② 10月16日

	正門	北参道口坂上	北参道口坂下	合計
10:00~10:30	707.2	353.6	353.6	1414.4
10:30~11:00	707.2	353.6	353.6	1414.4
11:00~11:30	2210	1105	1105	4420
11:30~12:00	2210	1105	1105	4420
12:00~12:30	2210	1105	1105	4420
12:30~13:00	2210	1105	1105	4420
13:00~13:30	1768	884	884	3536
13:30~14:00	1768	884	884	3536
14:00~14:30	1768	884	884	3536
14:30~15:00	884	442	442	1768
15:00~15:30	707.2	353.6	353.6	1414.4
15:30~16:00	707.2	353.6	353.6	1414.4
16:00~16:30	707.2	353.6	353.6	1414.4
合計	18564	9282	9282	37128
≡	18564	9282	9282	37128

これらの結果より、10月15日の来場客数は19699人、10月16日の来場客数は37128人、つまり二日間合わせて**56827**人の客が来場したと推測される。

(4) 来場者数に関する推計結果のまとめ

2日間の来場客数は**14950～56827**人の間であると推測できた。

5 会場レイアウト調査

(1) 調査目的

本調査は、メイン会場の現状を知り、客観的に会場の問題点を探ることで、今後の根津・千駄木下町まつりのさらなる向上に貢献することを目的として実施したものである。

(2) 調査方法

- ①根津神社境内の目視による利用実態の調査と写真撮影
- ②根津・千駄木下町まつり利用実態調査アンケート結果
上記の二つをもとに問題点を探る。

(3) 問題点と改善案

①ふれあい広場

●問題点：観覧スペースが狭く、ステージがなく低い
ため、多くの人の観覧が望めない。

●改善案：本部・警備・放送席・着替えのテントを楼門の周辺に置き、ふれあい広場を本部などがあつたところへ移す。着替えテントはステージの横に置くことでスムーズに準備が行え、イベントの効率化につながる。また、ある程度の高さがあるステージを設置することにより、観覧スペースも広くなり、観覧席も増やせるので多くの人が観覧できる。



②北参道口

●問題点：北参道口からではおまつりをやっているかどうかわからない。

●改善案：おまつりらしい提灯などの装飾や、目立つ看板を設置すべきである。そうすれば、おまつりがあることを知らなかった人の集客が見込める。



③トイレ

●問題点：トイレがどこにあるかわかりづらい。

●改善案：トイレの場所をわかりやすくするために人通りが多いふれあい広場やトイレの入り口付近にトイレの場所を示す看板を設置する。

④池の周り

●問題点：休憩場所が少ない。

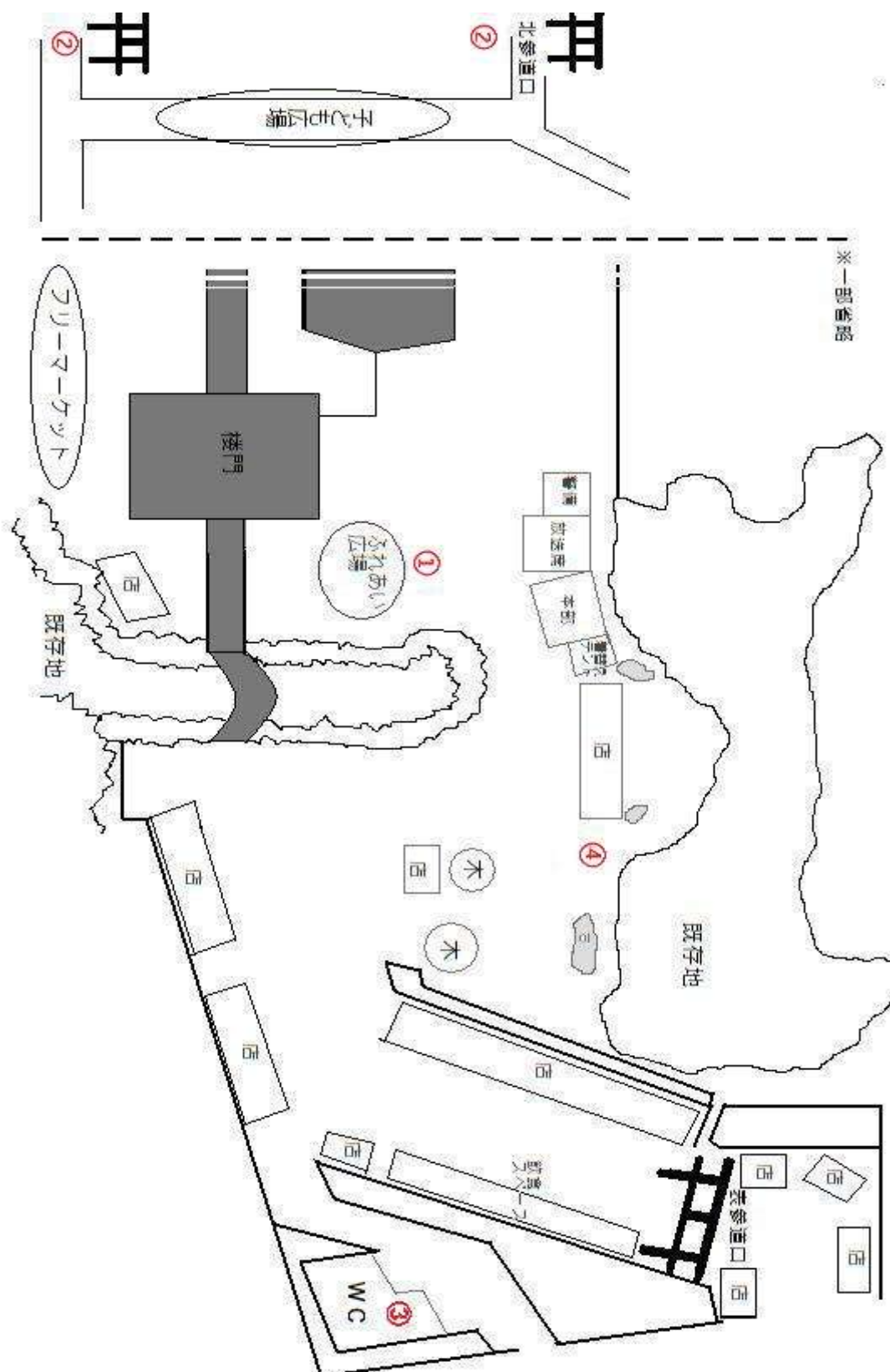
●改善案：この場所は静かで落ち着きがあり石に座ることもできるので、多くの人が飲食をするために集まる。人が多くなると石やベンチに座れない人が多く、地べたに座り込む人も見られた。また、全体的に見てもベンチが少ないので、ベンチの数を増やすべきである。これらを改善することによって、利用者はよりおまつりを楽しむことができ、滞在時間が長くなり収益にも繋がるだろうと考えられる。



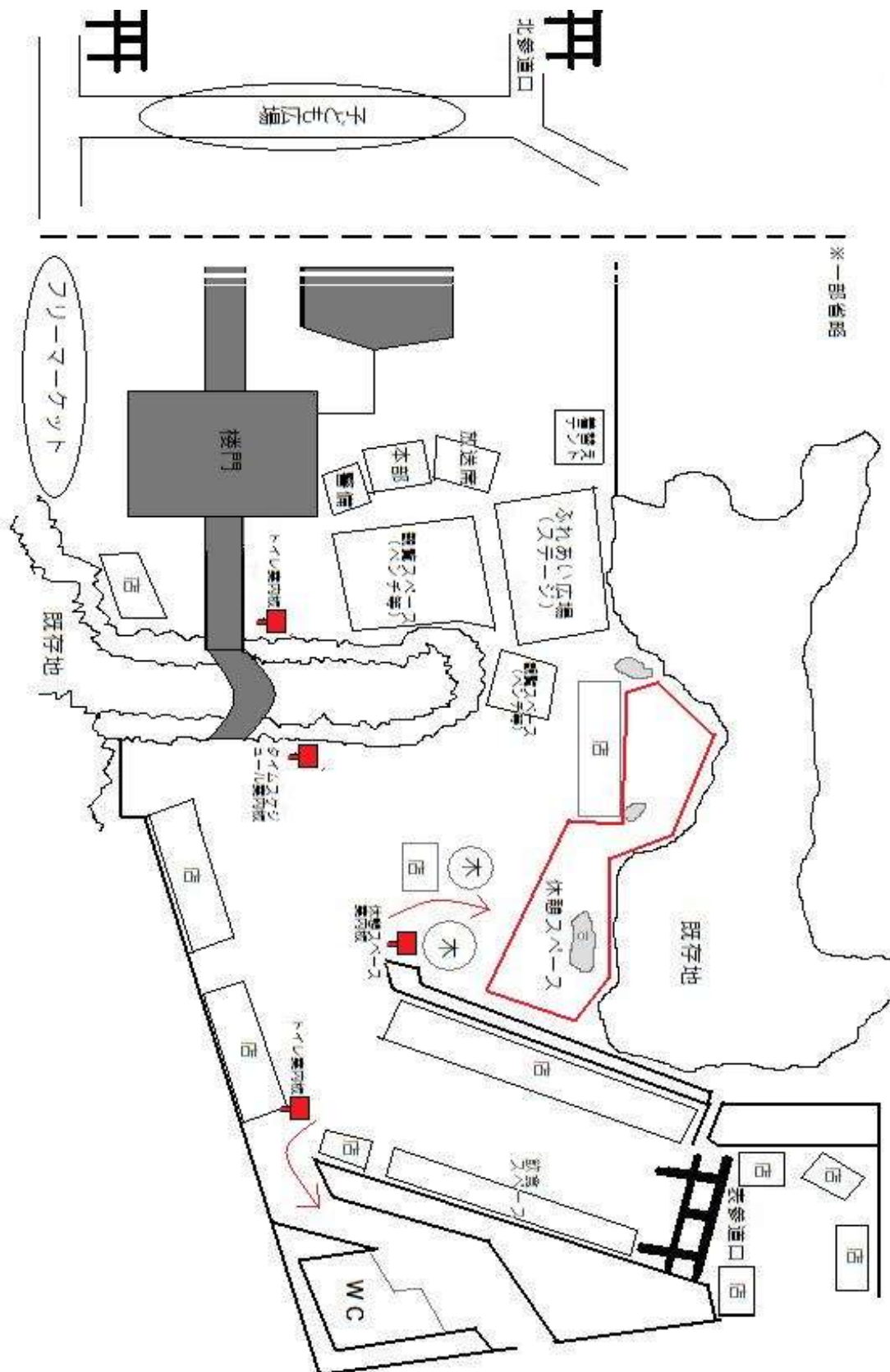
(4) 会場レイアウト案

上記であげた問題点・改善案をもとにレイアウトを提案する。

●既存レイアウト



●改善案レイアウト



6 サブ会場における各種イベントの実施状況

①よみせ通り延命地蔵尊

延命地蔵尊の地元は永代繁栄すると伝わり、よみせ通りはこの門前にある。ここでは、やきそば、ポップコーン、子どもくじ、餅つきが行われていた。通行人もおり、延命地蔵尊を拝む人や、やきそばを購入する人も見受けられた。拝んだ人には、お菓子のプレゼントがあった。子どもくじは子どもに人気があるため子供連れの家族が多く来場していたと思われる。



②須藤公園

松平備後守の下屋敷跡で、現在は公園として整備されている。美しい緑や滝があり、地域の憩いの場所である。ここでは、趣味の展示会、フリーマーケット、かき氷、焼き鳥、フランクフルト、おもち、お酒などの販売が行われた。ベンチも設置されていたため、来場者はゆっくり飲食をしていた。子どもには風船のプレゼントもあり、子どもの来場者数も多く活気があった。また、地元の方々の作品が展示されており、人々の交流の場となっていた。



③千駄木二丁目会場

不忍通り沿いの商店街にある。千駄木二丁目会場では、菊花鉢プレゼント、餅入りちゃんこ、かつぼれ、人力車無料体験が行われた。菊花鉢プレゼントは、文京社会福祉協議会へ100円以上の寄付で、先着100名へのプレゼントである。餅入りちゃんこは、蒼国来関が参加して、荒汐部屋直伝のちゃんこ鍋が振る舞われていた。かつぼれは、梅后流一門によってにぎやかに披露された。人力車無料体験は、不忍通りの千駄木二丁目付近を車夫の案内で巡っていた。なお、ちゃんこかつぼれに関しては日曜日のみの実施であった。



④藍染大通り

メイン会場の近くにあり、親子三代昔あそび、和太鼓演奏、かつぼれ、商店街パレードが行われていた。ベーゴマ、コマ、メンコなど昔の遊びを体験することができるため、家族で楽しむ人達が多かった。



⑤不忍通りふれあい館

地元住民のふれあい、伝統技術の保存・継承を目的とした文京区の施設である。ここでは、伝統工芸展、尺八と琴のミニライブ、子供ジャズバンドが行われていた。

当会場で特徴的だったのは催し物の告知をマイクで行っていたことである。この効果は絶大で尺八と箏の演奏会には用意していた座席数が足りなくなり立ち見の人も居るほどの盛況ぶりであった。伝統工芸展にはTV局も取材に訪れており注目度の高さが伺えた。屋内会場のため、ゆったり座って楽しめるという強みを生かした催し物であり、来訪者を年齢別に見ると高齢者の割合が高かった。主観的ではあるが各催し物は盛り上がっていると感じた。



⑥宮永仲通り

不忍通りから奥まったところにある。ここでは、パソコンによる姓名判断、人力車、和太鼓の演奏、かつぼれが行われていた。

催し物の際に、流れる大きな音楽とアナウンスにより人が集まる工夫をしていた。周りにはギャラリーやカフェなどがあるため、催し物が実施されていないときでも楽しめる場所があった。



⑦根津銀座通り

言問通り沿いの商店街の中にある。15日（土）はイベントは実施されていないが、16日（日）にはジャズバンドが行われていた。（取材撮影は15日（土）のみの実施であったことから、16日（日）のジャズバンド演奏の写真は省略）

7 参考資料

(1) アンケート票

根津・千駄木下町まつりアンケート

東洋大学国際地域学部国際観光学科 東海林ゼミ

東海林ゼミではゼミ活動の一環として、根津・千駄木下町まつりに参加して今年で3回目となります。このアンケートでは、下町まつりの魅力を発見し、根津・千駄木地域の活性化へとつなげるために役立たせていただきます。

下記のアンケートにお答えください。該当するものには○、空欄には記入をお願いします。

- 1 性別 【 男 ・ 女 】
- 2 年齢 【 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上 】
- 3 祭りには誰と来ましたか。
① 家族 ② 友達 ③ 恋人 ④ 一人 ⑤ その他()
- 4 祭りに来られた理由は何ですか。 例えば、「舞台があるから」「友人に会えるから」 など
()
- 5 お住まいはどちらですか。
① 根津・千駄木地域 ② 根津・千駄木地域以外の文京区
③ その他() 都・道・府・県 市・区
- 6 今まで何回祭りに来ましたか。
① 初めて ② 2回目 ③ 3回目 ④ 4回目 ⑤ 5回以上
- 7 何時に来られましたか。また、滞在時間を教えてください。
(1) ()時
(2) 滞在時間 ()時間
- 8 祭りは何で知りましたか。
① インターネット ② ポスター ③ 口コミ ④ たまたま通りかかったら
⑤ その他()
- 9 東洋大学のパンフレットを知っていますか。
【 はい ・ いいえ 】
(1) “ア”で「はい」と答えた方にお聞きます。東洋大学のパンフレットをどこで見ましたか。
()
- 10 サブ会場には行きましたか。
【 はい ・ いいえ 】
- 11 “イ”で「はい」と答えた方にお聞きます。どこのサブ会場に行かれましたか。(複数回答可)
(1) ① 不忍通りふれあい館 ② 藍染大通り ③ 宮永通り ④ 千駄木二丁目会場
⑤ よみせ通り延命地藏尊 ⑥ 須藤公園 ⑦ 根津銀座通り
(2) 1番魅力的なサブ会場はどこでしたか。
会場() 出し物()
(3) サブ会場に来てよかったですか。
【 はい ・ いいえ 】 理由()

- 12 “9”で「いいえ」と答えた方にお聞きます。なぜサブ会場に行かないのですか。
()
- 13 下町祭りで魅力的なものは何ですか。(複数回答可)
模擬店() ふれあいひろば() 子どもひろば()
フリーマーケット() スタンプラリー() 下町めぐり()
- 14 模擬店では何が買われましたか。
【 はい ・ いいえ 】
- (1) “15”で「はい」と答えた方にお聞きます。何を買われましたか。
()
- 15 下町まつり以外で根津・千駄木地域にて消費した、あるいは消費する予定の合計金額を教えてください。
- ①0円 ②500円未満 ③500円以上 1000円未満
④1000円以上 2000円未満 ⑤2000円以上
- (1) “17”で②～⑤と答えた方にお聞きます。主に何に使いましたか。
①買い物 ②食事 ③その他()
- 16 下町まつり全体で改善してほしい点があれば教えてください。
()
- 17 また下町まつりに来たいですか。
【 はい ・ いいえ 】
理由()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

(2) ミニガイド

おまつりのメイン会場

日本武尊が創祀したと伝わる「根津神社」の境内が、おまつりのメイン会場です。

縁日ひろば：屋台の出店、遊藝店、ペン画、物産展、被災地物産展、伝統工芸実演など
 すだちひろば：秋祭、お祭り、シャボン玉、プチロケットなど
 フリーマーケット：各日とも約100店舗が出店予定(雨天中止)
 ふれあいひろば：餅屋、和太鼓、秋祭、大漁旗、かっぱなど

縁日ひろば
 ①九谷焼、漆子、加賀友禅
 ②栗まんじゅう、和菓子、きんつば
 ③被災地物産
 ④和、すいとん、みそ信濃
 ⑤コーヒー、きつぽうスチウ、茶
 ⑥餅屋、おでん、いしかの餅、秋の物
 ⑦うどんなど
 ⑧あめ組工、書物展
 ⑨観光サリ、観光グッズ(土、日)
 ⑩地域物産展センターのPR
 ⑪工芸品の展示販売など
 ⑫伝統工芸実演(江戸からのみ、餅工芸)
 ⑬餅、若衆焼、いも煮など
 ⑭餅、カレンダー
 ⑮焼きそば、ベッタ焼き、秋の物
 ⑯たい焼き、たこ焼き
 ⑰焼き鳥、アツアツ、駄菓子など
 ⑱餅、お餅、お餅、お餅
 ⑲ゲーム(射的、ビンゴ、ヨーロ)

このガイドは東京大学農学系林ゼミの学生が自主制作したものです。ガイドを作るまでは、根津・千駄木地域のことをあまりよく知りませんでした。しかし、ガイドを作っていくうちに、地域の魅力をたくさん知ることができました。皆さんにも、このガイドを片手に、「自分だけの」根津・千駄木の魅力を見つけていただけたらと思います。

制作・発行 東京大学農学系林ゼミ 東京大学農学系林ゼミ
 制作協力 文京区立分室地域活動センター 根津神社活動センター

第13回 根津・千駄木 下町まつり

会場は根津神社である。今日のガイドは！

開催期間：10月15日(土)・16日(日)
 会場：根津・千駄木下町まつり実行委員会
 会場：根津神社境内・サブ会場1カ所

根津・千駄木下町まつりは、毎年10月に開催されており、今年で13回目を迎えます。メイン会場の根津神社境内のサブ会場では、餅屋、フリーマーケット、スタンプラリーなど、さまざまなイベントが行われます。

主催：文京区、文京区町会連合会、文京区産業連合会、文京区商店街連合会、文京区観光協会、東京農工大学農学系林ゼミ、協賛：東京ゲーム、東京証、日本経済大学、東京大学

根津・千駄木地域とは

文豪のまち
 出会いのまち
 伝統のまち

文豪のまち
 根津・千駄木地域は多くの文豪が住んでいた町として有名です。この町で夏目漱石、森田外、佐藤幸夫などが数々の名作を執筆しました。

出会いのまち
 この道を歩いたら何があるだろう...そんな冒険心をくすぐる場所が、根津・千駄木地域にはたくさんあります。道の一つ一つに根津・千駄木地域の風情や面白さ、出会いや発見が隠れています。一度、色々な道に迷いこんでみるのも、この町の楽しみ方の一つです。

伝統のまち
 江戸の文化と伝統、老舗の技、昔ながらの駄菓子屋、思わず足をとめてみたくなるもの、この町にはあふれています。

あめ組工
 熱して染めた色、動物や花などの姿に染みこんでみる。その平仄にびっくり！

染物
 江戸は、染物の盛んな町だったのだ。その伝統を受け継いだ染物をたくさん見ることができるといふ。

おまつり会場案内 ①～⑧：サブ会場

サブ会場は全部で7カ所！歩いてまわってみよう！

おまつりのサブ会場

①よみせ通り延命地蔵尊
 延命地蔵尊の地元は、永代繁栄すると伝わっています。よみせ通りは、この門前にあります。
 15日(土)10:00～16:00 焼きそば、子供くじ
 16日(日)10:00～12:00 『おっちゃん、餅つき』

②御膳公園
 松平廣後守の下屋敷跡で、現在は公園として整備されています。美しい緑や海があり、地域の憩いの場所です。
 15日(土)10:00～16:00 趣味の作品展、リサイクル
 16日(日)10:00～14:00 『イクルショップ』など

③千駄木二丁目会場
 不忍通り沿いの商店街の中にあります。
 15日(土)10:00～16:00 餅まつり、かっぱ
 16日(日)10:00～15:00 『など』

④盤染大通り
 メイン会場の近くにあり、サブ会場は全部で7カ所！歩いてまわってみよう！
 15日(土)11:00～16:00 親子三代昔あそび
 13:00～16:00 和太鼓、かっぱ
 16日(日)10:00～16:00 和太鼓、かっぱ
 13:00～ 商店街パレード

⑤不忍通りふれあい館
 地域住民のふれあい、伝統技術の保存・継承を目的とした文京区の施設です。
 15日(土)10:00～16:00 伝統工芸展、お菓子
 16日(日)14:00～16:00 下町寄席

⑥根津銀座通り
 根津銀座通りの商店街の中にあります。
 15日(土) イベントの実演
 16日(日)12:00～16:00 ジャズパレード

⑦宮永仲通り
 不忍通りから奥まったところにあります。
 15日(土)13:00～16:00 姓名判断、人力車
 16日(日)10:00～16:00 『リノリウム』
 和太鼓、かっぱ

※注意
 イベントはすべて雨天中止となります。雨天の場合は、イベントは中止となります。雨天の場合は、イベントは中止となります。

その他のイベント

○スタンプラリー
 サブ会場をまわると記念品が貰えます。
 ○商店街一斉売出し
 ポスター掲示所で1000円以上のお買い物をするとシールが貰えます。
 ○下町めぐり
 下町の名所旧跡をガイドが案内します。受付は根津神社ふれあい広場です。

おまつり会場案内 ①～⑧：サブ会場

サブ会場は全部で7カ所！歩いてまわってみよう！

おまつりのサブ会場

①よみせ通り延命地蔵尊
 延命地蔵尊の地元は、永代繁栄すると伝わっています。よみせ通りは、この門前にあります。
 15日(土)10:00～16:00 焼きそば、子供くじ
 16日(日)10:00～12:00 『おっちゃん、餅つき』

②御膳公園
 松平廣後守の下屋敷跡で、現在は公園として整備されています。美しい緑や海があり、地域の憩いの場所です。
 15日(土)10:00～16:00 趣味の作品展、リサイクル
 16日(日)10:00～14:00 『イクルショップ』など

③千駄木二丁目会場
 不忍通り沿いの商店街の中にあります。
 15日(土)10:00～16:00 餅まつり、かっぱ
 16日(日)10:00～15:00 『など』

④盤染大通り
 メイン会場の近くにあり、サブ会場は全部で7カ所！歩いてまわってみよう！
 15日(土)11:00～16:00 親子三代昔あそび
 13:00～16:00 和太鼓、かっぱ
 16日(日)10:00～16:00 和太鼓、かっぱ
 13:00～ 商店街パレード

⑤不忍通りふれあい館
 地域住民のふれあい、伝統技術の保存・継承を目的とした文京区の施設です。
 15日(土)10:00～16:00 伝統工芸展、お菓子
 16日(日)14:00～16:00 下町寄席

⑥根津銀座通り
 根津銀座通りの商店街の中にあります。
 15日(土) イベントの実演
 16日(日)12:00～16:00 ジャズパレード

⑦宮永仲通り
 不忍通りから奥まったところにあります。
 15日(土)13:00～16:00 姓名判断、人力車
 16日(日)10:00～16:00 『リノリウム』
 和太鼓、かっぱ

※注意
 イベントはすべて雨天中止となります。雨天の場合は、イベントは中止となります。雨天の場合は、イベントは中止となります。

(3) 調査を終えて（東海林ゼミ 5 期生 2 2 人の感想）

●川上 ゆり

今回の屋台出店で学んだことはいくつかあります。まず1つめは観光・レジャー産業は天候による影響を大きく受けるということです。天候によって生産管理や来場者の人数や空気感も変わったので、実際にそのやりくりを経験できてとても勉強になりました。

2つめは自分が関わったプロジェクト、根津・千駄木下町まつりのミニガイドのことで。どんな内容にすれば地域の方に喜んでいただけるか、手にとっていただけるか、利用者側に立って物事を考えることが難しかったです。表現一つで誤解もされてしまうし、作り手側の思い通りに伝えられないこともあるので、制作にはとても慎重になりました。結果的に私たちのミニガイドを手にとっていただいた方々がどのように感じたかは分りませんが、少しでも私たちの思い、根津・千駄木地域をもっと知ってほしい、もっと地域を歩いてサブ会場へ興味をもってほしい、ということが皆様に伝わっていれば幸いです。

3つめは屋台につけたメニュー表示のことで。今回私たちの屋台では、たい焼きを 5 種類用意しました。作り手側からしたら 5 種類あることは分かりきっていることですが、お客様に自分たちが作ったメニュー表ではうまく理解していただけませんでした。1 日目が終わって作り直す時間があっても関わらず、その作業を怠ってしまったことを後悔しています。

最後に、今回下町まつりに参加させていただいて、座学では学べない本当の観光業を経験できて本当に感謝しています。今後とも地域の方々ととの繋がりを大切に、今回学んだことを活かしていきたいと思っています。

●仲川 舞

根津・千駄木下町まつりの出店事業を通して、“お祭りの屋台”というひとつの事業を成功させるには、数々の事前準備が必要不可欠で、なおかつチームワークが大切だということを学びました。私たち総務グループは『シンプルで効率的な屋台づくり』を目指し準備を行ったのですが、この一見単純そうに聞こえる言葉であっても、どのような要素を重視すべきかなどの取捨選択の仕方によってその中身は大きく変化し、深く考えれば考えるほど遠回りはするけれども、よいものを作り上げることができるという事を知り、実践できる機会になりました。根津・千駄木下町まつり当日 1 日目はあいにくの雨模様で販売個数も伸び悩んだのですが、2 日目は晴れ間も見え、たい焼きたこ焼きともに大盛況となり、事業を成功させることができました。根津・千駄木下町まつりの 2 日間、地域の方々と共にお祭りを盛り上げる一員となれたことにこの事業の達成感を得ることができました。

●益子 志央里

おまつりに参加するにあたり、広報宣伝でミニガイドの制作をしました。根津・千駄木地域を実際に歩き、私たち学生が感じた「文豪・出会い・伝統」という3つのキーワードを元に、ガイドを片手にまち歩きを楽しんでほしいという思いで制作をしました。ガイドを手にとった方から「地域全体のことが知れて面白い」という声もいただきました。

つづいてはサイン類の作成もしました。今年から「抹茶たい焼き」と「ねぎポン酢たこ焼き」の2つの新メニューが加わり、聞き慣れない商品を買いやすくするためにキャッチフレーズをインパクトのあるものにしました。しかし、写真やサンプルがなかったためイメージしにくいサイン類となってしまったことが心残りです。

おまつり全体を通して、おまつりに参加できたこと、根津・千駄木地域の人と関われたことはとても貴重な体験になりました。ガイド・サイン類の経験から客観的なものの考え方が必要だと感じました。今回の出店事業での反省点を来年度に活かしてもらえればと思います。

●江原 菜津美

4月から根津・千駄木祭りのために準備してきました。初日はあいにくの天気でしたが午後になると天気も回復してきて祭りらしい賑わいがみられました。

私はたいやき班で管理・会計を行いました。管理を行うのは大変でした。午前中たいやきはたこやきよりも注文がでず、作りすぎると廃棄を出してしまうので、その調整に苦労しました。1番嬉しかったことはお客さんに「おいしかったからまた買いに来ちゃった」と言われたときはすごく嬉しかったです。午後には来場客数の調査とアンケート調査を行い、来場者の人たちと直接話せる良い機会にもなり、みなさんアンケートに協力的で人のあたたかさを感じました。

祭りの雰囲気を感じたことはやはり地元密着の祭りだと思いました。地元の人毎年このお祭りを楽しみにしているのだと感じました。2日間祭りに参加し、出店もして、地域の人々と話しができる貴重な経験となりました。また機会があったらこのような地域の人と交流できる場に参加したいと思いました。

●吉田 早紀

私がおまつり事業を通して学んだことは、「先回りをして考える」ということです。広報・宣伝、たい焼きの両グループに所属していました。例えばその中でパンフレット・サイン類でいえば、お客様がどのような情報を欲しているのか、たい焼きだと新メニューの考案の際に、どのような商品だと需要があるのか、お客様を引き付けられるのか。今ある情報から、将来は何が求められるのかを「先回り」して予測する難しさを痛感しました。しか

しそれと同時に、その「先回り」が対象(お客様)に伝わったとき、ぴったりとはまったときの達成感も味わえました。このおまつり事業で学んだことを、今後は就職活動やアルバイトに活かしていきたいです。企業の求める社会人像、お客様のニーズを「先回り」して考えるなど、これ以外にも様々なことにつながっていくと思います。これからは「先回り」精神を持って、行動していきたいです。

●矢島 美里

根津・千駄木下町まつりで出店するにあたって、普段の生活ではなかなか学べない多くの貴重な経験をすることができました。その中でも、より考えさせられたことが二つあります。一つ目が裏方の重要性です。商品を作るために焼き手はプロ意識を持って上手く焼くしなければならないし、大切なポジションです。しかしそれ以上に焼き手の後ろにいる、商品管理や材料の補充をする人は重要な担い手だということです。私は当日たい焼きの焼き担当だったのですが、裏方の人たちの的確な指示や判断があったから、売れる商品を作ることができたのだと思っています。私は裏方として支えるにはまだ力不足だったことを反省しています。二つ目が事前準備についてです。私はレジ金の準備を前日にしました。周りのかたに助けてもらったので、どうにか2日間を終えることができましたが、もっと早くから考えて準備しておけば、小銭が不足する等のトラブルはなかったでしょう。

多くのひとに支えられ、この下町まつりに参加できたことを感謝しています。出店事業を通して経験したことを今後に活かしていきたいです。

●緑川 夏香

私はたい焼きグループでゼミが始まってからずっとお祭りを楽しみにしていました。お祭りで感じたことは当たり前なことかもしれませんが、キャンパス内の実演販売とは全く異なるものでした。実演会は「キャンパス内」という甘えが私自身あったと思います。お祭りは一般の方に商品として提供し、お金を払う価値のあるものにしなければなりません。すべての商品が一定のクオリティーで均一の商品にしなければならないためタイマー管理や在庫管理などに気をつけました。キャンパス内で売れるものとお祭りで売れるものは異なり、また売れる時もバラバラなので会計係とコミュニケーションと、とてつもなく忙しいので自己判断も必要になります。今回のお祭りの出店事業では商品に対するプロ意識を学び、お客様とのコミュニケーションはもちろんのこと、お祭りに参加している地元の方とのコミュニケーションなどいろんな所での人とのふれあいがありました。普通ではできない貴重な体験をさせてもらいました。

●鈴木 成美

10月15日（土）、16日（日）の2日間、根津神社にて行われた『根津・千駄木下町まつり』にたこ焼き・たい焼きの屋台を出店事業として出しました。また、それと同時に、根津・千駄木下町まつり利用実態調査アンケートも行ったので私なりに感じたことをまとめたいと思います。

1日目は、雨。2日目は晴れと両極端な天候で、2日目の方がお祭り自体の来客数は多く感じましたが、売上の的には両日あまり変化はなく、先生がおっしゃっていたように、たこ焼きの昼ピークが終わった瞬間にたい焼きにピークが来ました。たい焼きは、1日目は去年の結果を参考に、2日目は1日目の結果を参考にモジュールを組みましたが、タネに虫が入るという予想外のハプニングあり、慌ててしまいました。余っていた材料でなんとか対応できたので本当に良かったと安心しています。売り切れが出てしまっても、他の味を買ってくれるお客さんがたくさんいて、出店時間ギリギリまで売り続けることができて本当に感激です。

利用実態調査アンケートも50代以上の方に聴いたのですが、毎年来ている人もいれば、たまたま通りかかって寄ってみたという人もいて、この下町まつりは人を惹き付ける魅力のあるお祭りだと改めて実感しました。

練習から新商品試作、シフト、モジュール作成、校内実演会、お祭りでの出店まで、たくさん考える機会があり、学べたこともたくさんありました。学んだことを今後にも活かしていきたいと思います。貴重な経験をありがとうございました。

●野本 翔平

今回、根津・千駄木下町まつりに参加して出店事業の大変さと周辺地域に住む人々のあたたかさを感じました。お祭りに向けての準備とたこ焼き・たいやきを焼く練習はとても大変でした。たこ焼きを作るのは初めての体験で火加減に気をつけながら、きれいな丸を作ることがとても難しく大変でした。そして、私たちは去年まではなかった「ねぎポン酢たこ焼き」を販売しました。この商品も売り出した味にするまでにポン酢の味とかける量などを試行錯誤の末に完成させたことで、新しい味の商品を作ることの難しさを知ることができました。

お祭りの二日間は同じように店をしている下町とお祭りに来ていた人々のあたたかさを感じました。ゼミで出店事業は毎年行っているために初めての私たちにも周りのお店の人たちが「今年も頑張ってるね」と声をかけて下さったりしてあたたかく迎えて頂きました。お祭りに来ていた人々に行ったアンケートも快く引き受けてもらい、その中で「おいしかった」と言われると本当にうれしく思い、時間をかけて取り組んで良かったと思いました。今回は生産者の立場に立って物事考える貴重な体験をすることができて良かったと思います。

●渋谷 仁香

根津千駄木下町まつりに参加した感想として、朝が早かったり、生地に異物が混入してしまい全廃棄を余儀なくされたことなど、大変な事もたくさんあったが、個人的にはすごく楽しんで参加できたと思う。東海林ゼミ全体の雰囲気も終始良く、ピーク時でもピリピリせずに皆落ち着いて個々作業に取り組めていたと私は感じた。

また、私達と同じくお祭りに参加していた根津・千駄木地域の方々や、お祭りの来場客の方から「頑張ってるね。」「買いにいくからね。」など、声をかけてくださり、たくさんの人とのふれあいを通して、下町の良さ、あたたかさを感じることが出来た。

出店事業そのものの感想としては、ネギポン酢がノーマルに比べあまり出なかった印象があった。やはり、一般の人からはネギポン酢は変わり種であるので、買う気にさせる売り文句がいかにか大事であるかが分かった。

また、会計を真ん中に置いたが、焼き手に注文とお金を渡してきた方が結構多かった。そんなことから、私たちは自分らで考えて作っているから分かっている、人がそれを理解してくれるとは限らないと言うことが分かったし、以外と人は看板など注目して見ていないんだなと思った。そんなことから、お客さんに気付かせるためにはどうしたらいいのだろうか？と次の課題も見つけることが出来た。

この出店事業を通し、実際に体験しながら多くのことを学べて、本当に良い経験となった。

●岡田 陽菜子

今回はお祭りに参加させていただきありがとうございました。

私がこの出店事業を通して一番強く感じたことは、よく考えて事前準備をすることの大切さです。始めのうちの練習会では上手く焼くことに必死で物の配置や人の導線、係の仕事内容など気にせずに練習していました。そのため校内実演会では課題点が多く見付き、自分自身でこの仕事はどうやったらもっと上手くいくかを考えながらする仕事とそうでない仕事は全く異なったものになると学びました。二つ目に、学生と言えどプロの意識を持って作業をすることの大切さです。たこ焼きを例にあげると、今回新たにネギポン酢たこ焼きを発売したのですが、開発当初わたしは「〇ダコでも売っているし美味しそうだし、これは売れるに違いない。ネギのせてポン酢と海苔をかければ完成だし…」と主観的に安易に考えていました。しかしそうではなくて、お客様からしてみれば材料も自分たちで開発して、何回も味見を繰り返し自信をもって提供された方が嬉しいにきまっています。先生の助言をもとにクエン酸を入れることで酸っぱさがより引き立ち、ポン酢本来の味が長続きするようになりました。個人的には釣銭の準備金が足りなくなってしまうとまだまだ考えが足りなかったと反省しましたが、全体では学生らしく元気に、また一人一人が多くのことを学ばせていただき大成功だったと感じています。貴重な体験をさせていただきありが

とうございました。

●石田 大祐

私は、今回のゼミ活動で初めて根津・千駄木下町まつりに参加しました。今まで聞いたことが無かったお祭りだったので、“地域でやっている小さなお祭り”としか思っていませんでした。しかし実際に参加してみて、自分が大きな間違いをしていたことを実感しました。出店やお客さんの数、催し物の規模や祭り全体の活気が自分の想像を遥かに超えていました。今の時代、地域のお祭りは年々廃れているとよく言われます。事実、私の地元のお祭りも徐々に人が集まらなくなり、出店の数が減っています。それらを踏まえると、より一層このお祭りの凄みが私には伝わってきました。

また、私たちのゼミで出店した「たい・たこ焼き屋」も大繁盛することができて、皆で一生懸命練習した甲斐がありました。隣の出店の人達と助け合う場面もあり、地域の人と一体になってお祭りを盛り上げることができました。非常に充実した時間を過ごすことができたと思います。

●森本 健太

実演会や下町まつりは焼くこと以上に力を入れることが多くありました。私はシフトの中で焼き手を担当していましたが、それ以上にお客様の動線の誘導や事前の準備に意識をしていたと思います。校内実演会では屋台の中の問題は私たちの問題ですが、ピーク時の誘導や列整理、オーダーの確認など、それ以上に私たちが活動している価値を上げるため、対外的な部分はより繊細な対応が求められました。特に下町まつり本番では東洋大学の代表として参加していたため、商品の品質や接客はもちろん、お客様の誘導はより責任を持って行いました。

事前準備では多くの資材の発注を担当していました。最初は総務との連携がうまく取れず、配送のタイミングも悪かったが、必要なものを1つにまとめて発注を行うことや、総務との連絡を密に取ることで円滑な屋台の運営を協力して行うことが出来ました。

動線設計やサービスの質、発注システムの構築をきちんと考えた上で1つ1つ丁寧に学生や地域の方々に接することの大切さを学ぶことが出来ました。

●中原 達彦

私たち東洋大学、東海林克彦ゼミの学生は地域活性化、地域の方々との結びつきをテーマに10月15・16日に行われた根津・千駄木祭りにたこ焼き・たい焼きのお店を出店しました。

自分はたこ焼き班、総務グループとしてこの出店事業にかかわらせていただいたのですが、例年にはなかった「ネギポン酢たこ焼き」という新商品を提供させていただきました。当初、大学内で行われた実演会ではもう一つ「チーズたこ焼き」という新商品がありました。普通のたこ焼きに加えてあっさり食べられるネギポン酢、こってりしたチーズたこ焼きということでよりお客様に楽しんでいただけるよう、バリエーションを増やしました。しかし、チーズたこ焼きの方は商品管理と提供の難しさからお祭りでは売らないということになりました。このチーズたこ焼きは商品管理の仕方についてもう少し考える時間があれば商品を提供するまでに至れたと思うので、そこは反省するべきところです。ネギポン酢の方は実演会で販売した際、「あつあつのたこやきにかけてはポン酢の味がしない」との意見をいただいてから市販のポン酢にクエン酸と白だしを加え、よりポン酢の味が感じられるよう改良しました。その結果、好評の声をいただきうれしい限りです。

また、反省すべき点としては2日目の閉店を待たずに材料を切らしてしまい、売り切れとなってしまったことです。当初、材料のモジュール作成計画では1日目の方に使う材料の方が多く設定し本番もそのとおりに作成しました。しかし1日目は雨もあってお客様があまり来られない結果になってしまい、材料を余らせてしまいました。逆に2日目は天気も回復したためより多くのお客様に足を運んでいただき、15時30分閉店のところ、14時で材料を切らしてしまいました。この点については1日目に余らせてしまった分を2日目に回すこともできたので、もう少し臨機応変に対応できたのではないかと思います。

最後に自分としてはいろいろ学ぶことも多く、この出店事業に関わらせていただいたことは自分にとってとても大きな経験となりました。これからまた白山地域ホームページ作成の件に関して関わらせていただくことになり、より地域活性化に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

●佐藤 千明

約半年間、私たちはこの祭りに向けて準備と練習を重ねてきた。その中で反省とともに多くのことを学んだ。まず、要領が大切ということだ。社会人になったら多くの仕事を任されるようになる。その上で大切なのはいかに要領よく多くの仕事をこなせるかだろう。この半年間は、たくさんのかたを同時進行で行ってきた。その仕事をすべて難なくこなせたかと問われるとはいえない。しかし、この半年間で時間の使い方や仕事をきちんとやりこなすことを学ぶことができた。また、仲間同士で情報を共有し、報告し合うことの大切さも学んだ。一人で勝手に決めて行動し、それを仲間に伝えないと仲間同士で混乱が起き、きちんとした情報もわからないままになる。この半年は本当に大変で、てんてこ舞いであった。しかし、お祭りが終わった後は今までの準備や練習が自分の中でのすごくためになったし、良い経験になったと思う。

●目野 奈央美

私は出展事業を通して、自分の考えの甘さに気づき、個性の活かし方を学んだ。

調査グループの仕事をしていく中で、アンケートの質問ひとつ考える事において何故それが必要なのか、聞きたいことを導くために適切な質問なのか、など仕事1つ1つの重み、一歩進む難しさを知った。また、ヒアリングをすることで様々な立場からの意見を聞けたために視野が広がり、同時に自分の凝り固まった考えを改めることも出来た。たい焼き班での仕事の中では、どれだけ配置を改善しても個々が自分の仕事にしか目を向けていなければ意味がない、連携こそが効率を上げるのだと学んだ。また、共に事業を進めていく中で、個々の能力を見出し、個々に適した作業方法や仕事を割り当てることで効率をより向上させ、作業環境も良好にしていくのだとも学んだ。ここには書ききれない程多くの事を学び、この半年で少なからず成長できたと感じている。貴重な体験にただただ感謝である。

●宮崎 ゆかり

本番の根津・千駄木下町まつりに向け、わたしたちは東海林ゼミに入ってから今までさまざまな段階を踏んで準備を積んできたので、終えた時にはみんなで長期的に、それとても深く取り組んできたひとつのことをやり遂げることができた達成感が得られ、そしてなんだかあたたかい気持ちになりました。というのも活動を通してゼミの仲間を改めて尊敬することが多くあり、また、ミニガイド作成時には地域活動センターの所長さんにアドバイスをいただいたり、当日は地域の方々にあたたかい言葉をかけていただいたりと、周りの人々の協力があってこそ自分は頑張れるのだということを実感できる良い機会となったからです。

わたし自身がこのひとつの長期的なプロジェクトの中で痛感したのは、普段から東海林先生がおっしゃっていることですが、自分の目線とは異なる目線から物事を考えることの大切さです。いろいろな場面で何度も痛感しました。そしてこれは今後も大切にしていかなければならないものだと思います。

今回おまつりに参加し、得られたことを自分の今後に生かしていきたいと思います。

●須藤 弘美

準備の段階で、当日に詰めの甘さが出ないようにとあらゆる想定をして、念入りに準備をやったつもりでいても、想定外のことがおきて手間取ってしまうことがあるので、準備の段階でもって時間をかけてあらゆる想定をしてそれに備えておく大切さを実感した。

(抹茶のたねに虫が混入したことなどを踏まえて。)

そして屋台の出店以外のことにも言えることだか、万が一を考えて、準備や時間はできる限りで余分に確保しておくべきものだと感じた。だか、余分に準備できる量的な問題や

時間も限られているので、そのなかでどのように行動するべきかを考える重要を感じた。

また、当たり前のようにできて、できなかったこととして反省したいのが、相手の立場に立って、今必要としていることや気持ちを考えて行動すること。

接客という面でも、一緒に仕事をする仲間との間の面でも、コミュニケーションを上手にすることやそれによって物事を円滑に進める上で大切であると実感した。

また、それと似たことではあるが、各作業に関してつねに一步先読みして行動することが効率の良い作業に貢献することにつながると思った。そのためには周りをよくみて、いまがどの段階なのかをきちんと把握することが必要だと感じた。

●胡桃沢 紗希

私は、たい焼きや広報宣伝、根津千駄木祭りを通じてさまざまなことを学びました。

新たなものを作ることや今までと違ったことをするには、答えのないような問題でも、その問題を乗り越えようとする深い考え方や多くの時間、広い視点を持つことが重要なのだと気がつきました。

新メニューの抹茶たい焼きでは、最初の段階のなぜ抹茶なのか、なぜ抹茶の粉の量はこの量なのかという客のニーズに答えるためのぶれない底辺きちんと決めたことがよかったですと思いました。今ではもう少し深く考えればもっとよいものになったのではないかと思います。お客様に焼いたものを直接渡すことで、たい焼き一つを焼くにもお客様によりよいものの満足いくものを、1つ130円の重みを感じていました。

また商品が完成したからと言ってそこが終わりではなく、そこからどうお客様に伝えていくか買っていただくかということが、最初の目的に達するには必要です。自分たちがどんなによいものを作ってもそれをうまく伝えられなくては、完成とは言えないと気付きました。

●小原 菜那子

地域の人との交流や、たこ焼きづくりなど、下町まつりでの経験は私にとって初めてのことばかりでした。ゼミが始まってから半年間、本当にあっという間でしたが、今回の経験を通じて、私自身が大きく変わったことを実感しています。

どうやったら商品がもっと売れるのか、お客さんに喜んでもらえるのか。普段学校で一緒に授業をうけたり、たわいのない話をしていた友達と真剣に話し合うことに初めのうちはなかなか慣れず、思っていることをうまく伝えられなくて戸惑うこともありました。ですが、ゼミのみんなで色々な思い出を作っていくうちに、絶対に良い物を作ろうと気持ちが強くなり、団結することができたと思います。

また、地域の歴史や、地元の方々のお話を聞いていく中で、観光を通じて行っていく地

域活性化とは、地域振興とはどういったものなのか、というのを今まで以上に感じる事ができたと思います。

楽しいことばかりを想像していたお祭り出店で、ぶつかった壁もたくさんありましたが、どれもわたしの大学生生活でなくてはならない思い出になりました。一緒に頑張ったゼミのみんな、地域の皆さん、本当にありがとうございました！

●加藤 めぐみ

私が出店事業私を通して一番感じたことは、分業の大切さです。

2回の校内実演会を経て、各ポジションでの役割が曖昧でみんなで同じ作業を行っていたため、かえって効率が悪くなっていたという反省が出たので、その反省を生かし、お祭りでは分業を徹底することにしました。具体的には、適材適所でシフトをくみ、各ポジションでの役割を細かく決め基本的に自分の仕事以外には手を出さないというものです。

たこ焼きのトッピングのポジションを例にあげます。トッピングはソースとねぎポン酢の2種類があり、校内実演会では1つのパックを何人かでトッピングしていたため、効率が悪く混雑時にお客さんの長い列を作ってしまった要因の一つでした。しかし、お祭りでは2種類のトッピングを完全に分業したため、混乱も減り効率よく販売することができました。何より、分業の大切さを実体験として得られたことが一番の成果であり、本気で取り組めた証だと思っています。

●曾根川 あずさ

私が根津千駄木祭りを通して特に学んだことは、在庫管理の難しさです。お客さんが来ない時間が来ない時間が少しでも続くと、在庫が溜まりすぎるのを恐れてたこ焼きを焼く手を止めていました。そして、それからすぐにお客さんが連続してきて、注文に焼くことが追いつかずスムーズに商品を提供できない場面が多々あり、それが印象に残っています。それは私も含め、たこ焼きのメンバー全員に在庫を作りすぎて廃棄が出ることを恐れる意識があったと思います。冷めても美味しいねぎポン酢たこ焼きを新しいメニューとして作った意味と、学校内の実演会と違ってお客さんが少しずつ、絶えることなく来るというお祭りの特徴をきちんと理解して、総務グループのメンバーの中で意思を統一することが足りなかったように思いました。ただ、もちろん予測通りにいくとは限らないし、初めてのお祭りで不安が大きかったので、常に自信を持って指示をすることは私達には難しかったと思います。

二日間のみのお祭りだったのもう一つ改善出来る点はあるのですが、お祭りでの出店は事前の学校内で行った出店での失敗した部分の経験をうまく活かして、全員が効率よく動くことが出来ました。何より楽しみつつ、気持ちに少し余裕を持つことが

出来たのは、私達の出店が一つのお店としてしっかり機能していた、ということだと思います。東海林ゼミの一員として、このように根津千駄木地区に関わることが出来て、とても良い経験になりました。